

演劇レーベル Bö-tanz 第 41 回公演素案

UNBREAKABLE

アンブレイカブル

最終章

—そして、決して壊れないはずの〈世界〉が崩壊を開始する—

【元悪徳警官・棚橋晃の章】

作・はなださとし

登場人物

〈三人の殺戮天使〉

秦 博(はた・ひろし):元セクハラ准教授

殺戮天使。グリゴリをも殺戮可能な〈アマダスの弾丸〉の創成する力を持つ。東日本技術科学大学(技科大)理学部地学科の元准教授。

棚橋 晃(たなはし・あきら):元悪徳警官(警部補)

殺戮天使。元警察官(留置場看守)。留置されたヤクザに便宜を図った不祥事で処分を受け退職。なお、その特殊能力(魔法)は不明。

樋村 克爾(ひむら・かつじ):元殺し屋

〈殺戮天使〉。千里眼魔法〈天空の目〉を持つ。かつては極悪ヤクザ組織、友誠会石間組お抱えのヒットマン(殺し屋)だった。

〈壬生法律事務所の職員達〉

壬生 匡子(みぶ・きょうこ):悪徳弁護士(壬生法律事務所の所長:ボス弁)

自称「悪徳弁護士」だが、壬生法律事務所の所長(ボス弁)は仮の姿。グリゴリを抹殺するために地上に墮とされた天使〈殺戮天使〉のひとりだ。〈グリゴリ〉を識別する魔法〈イントロスコピー〉を持つ。

但峰 大介(ただみね・だいすけ):壬生の部下の勤務弁護士(イソ弁)

壬生法律事務所のイマイチ融通の利かない勤務弁護士(イソ弁)。つーか、弁護士の仕事はしているのか？

大念 楓(だいにん・かえで):壬生の秘書兼助手

壬生の秘書兼運転手。残念ながら弁護士ではなく法律にも疎い。しかし、何故だかドライビング・テクニクだけは秀逸。

〈友誠会石間組の方々〉

滝野 雅哉(たきの・まさや):友誠会石間組・若頭 石間興産・総務部長

若頭として、組を仕切っている。極めて知的なインテリヤクザ。何故か、指人形(腕人形?)の操作に長けている。

石間 龍雄(いしま・たつお):友誠会石間組・組長 石間興産・代表取締役

石間組の組長。愛犬パピヨンのことをこよなく愛す。愛人のタミエを殺されたというのに、パピヨンちゃんがいれば寂しくなんかないの。

〈グリゴリ:原型(アーキタイプ)〉

アルマ(正しくは、アルマロス)

ガーリィで小悪魔風の女の子だが、グリゴリの先導者のひとりである。すべての魔術を無力化する能力〈護符(タリスマン)〉を持つ。彼女自身はそれを〈チャーム〉って可愛く呼んでるけどね。

挟井 栞(はざい・しおり):シェムハザイ

グリゴリ墮天の際のリーダーのひとり。すべての魔法使いの起源とも呼ばれる強力な魔法を持つグリゴリ。

有馬 嘉剛(ありま・よしたけ)

謎の殺戮天使。オムニコグニション、すなわち〈全知〉の能力を持つ

有馬 ルカ(ありま・るか)

高校三年生。来春、東日本技術科学大学に入学予定(2011年3月時点)

*

- ・首を切られる男:福井県川内組の若頭
- ・橋:留置場管理官で棚橋のもと相方(声の出演?)
- ・早坂朋美:秦の准教授時代の部下(助教)
- ・アナウンサー／インタビュアー／ニュース解説者(声の出演)

0. 幕開けは座談会？

舞台の上に複数のパイプ椅子。

主要なメンバー（秦、樋村、棚橋、壬生、大念、但峰、そして石間組の石間、滝野、さらにはアルマや嘉剛まで）が、客席に背を向けるようにしてパイプ椅子に腰掛け。または腕組みして立っている。司会役なのだろうか。秦が口を開く。

秦　でだ、Unbreakable 最終章を始める前にいろいろと整理しておきたいことが……。

棚橋　最終章ってわけだから、これで終わりってこと？

樋村　たりめーだろ。

但峰　だから最終章。

壬生　第一章、第二章と……。

石間　広げに広げきった風呂敷を……。

滝野　ここでたむ必要がある……。

嘉剛　というわけだな。

秦　そういうこと。で、Unbreakable 座談会を開催する。

みんな　座談会！？

壬生　のっけで座談会か？　終演後にパネルディスカッションというのはきいたことあるけど。

但峰　ある意味、新機軸？

秦　本シリーズの基本タームはまず、グリゴリだな。なあ、アルマロス。

アルマ　こっちに振るか？

樋村　振るだろ、そりゃ。

棚橋　お前、グリゴリだろ？

アルマ　まあね、一応。グリゴリとは天界に逆らい、それを捨て、地に降り立った 200 人の墮天使達。天界の秘術を人類に伝えたの。そして、人類の生活はどんどん豊になっていった。

秦　それはグリゴリであるお前の見解だな。

壬生　私たちの見解は、グリゴリが人類に教えたのは争うこと、殺し合うこと……つまり戦争。

アルマ　それは心外だな。

石・滝　心外だな。

秦　まあ、いい。人それぞれ捉え方は違うもんだ。とは言うものの、天界はグリゴリの墮天を裏切りと捉え、それを根絶やしにしようとした。

大念　で、送り込まれたのが、おっちゃん達。

壬生　と、私。

樋村　グリゴリを殲滅するために地上に落とされたんだ。

棚橋　翼をもがれて天界から突き落とされた。

アルマ　殺戮天使。それがあなた達。

秦 確かにそう誹られても、返す言葉がない。君たちを憎んでいるわけでも何でもない。俺たちの仕事はグリゴリを殺すことだから。

アルマ 最悪。

棚橋 で、殲滅完了で、天界に戻れるからって口約束のもと、有無を言わず地上に墜ちてきたって訳。

壬生 残念ながら、私たちはその口約束を嘘ではないと信じるしかない。

但峰 で、その天使達はグリゴリを殺戮するために、ひとつだけ魔法を使える様になっている。

大念 秦さんは、天使も殺せる魔法の弾丸、〈アマダスの弾丸〉を作り出せる魔法。そして、樋村さんは上空から地上を見ることができる〈天空の目〉。

但峰 グーグルアースの凄いバージョンみたいなヤツね。

大念 そう。そして、私たち壬生法律事務所のボスであるところの壬生先生は、人と区別することが難しいグリゴリを見分ける魔法。

壬生 イントロスコピー。

大念 ……を持っている。

嘉剛 で、私は過去・現在・未来を知ることができる……。

秦 オムレツコグニション。

全員 なんだそれは、カフェ飯のメニューか？

嘉剛 正しくはオムニコグニションだ。

秦 （悪びれず）それ。でも、嘉剛は我々に協力的じゃないんだよね。

棚橋 殺戮天使のくせに。殺戮に荷担しない。

嘉剛 未来までも見える私が何故、それを為す。

三人 ほら、それだ！

樋村 極めて利己的。

棚橋 グリゴリの殺戮は義務だぞ。

嘉剛 義務か？

四人 義務だよ。

その他 （いがみ合いをその他みんなで止める）まあまあ。

秦 あまつさえ自ら死のうとしてるし、このおっさん。

その他 マジで？

秦 そのために俺からアマダスの弾丸を奪い取った。

嘉剛 人間きの悪い。グリゴリに関する情報との交換だったろう。

秦 だったっけ？ いいから、アマダスの弾丸を返せ。

嘉剛 なんで？

秦 なんでも。いろいろな理由があるんだよ、こっちにも。いいから返せ（フィジカルに掴みかかる）

その他 （とっくみ合いを、その他みんなで止める）まあまあ。

但峰 で、棚橋さんの魔法は何だったっけ？

棚橋 うっ……と言葉に詰まる。

但峰 いけないこと聞いちゃった？

壬生 多分。棚橋はどんな魔法が使えるのか、自分でも分かってないの。
樋村 魔法を使えない、という魔法かな？
棚橋 って、なんだよそれ！
秦 棚橋の魔法はおいといて。
棚橋 おいとくのか！
秦 重要なのは、何で俺たちがグリゴリを殲滅しなきゃ行けないかってこと。
樋村 グリゴリは天界を怒らせた。その所業の中で一番腹に据えかねているのが。
但峰 ネフィリム。
大念 ウラヌス鉱物の発する熱を利用して発電する技術。
棚橋 そう。それは天界の秘術。
壬生 決して人類に教えてはいけない魔術。
アルマ どうして教えてはいけないわけ？ いいじゃん。
壬生 ちっとも良くない。それは人類が制御できる技術じゃない。
秦 と、天界は考えている。で、業を煮やした天界は、あの天災を引き起こした。
樋村 牡鹿半島沖での大地震
棚橋 そしてあの大洪水だ。
壬生 たくさんの人々の命を奪っただけでなく、我々の仲間である天使も死んだ。
アルマ グリゴリの方が、被害が大きかったって知ってる？
秦 確かに。それによって、200 人いたグリゴリは、ほんの数人までになった。
アルマ ほんと、最悪。
棚橋 さらにあの洪水によって、ネフィリムのひとつが制御不能に陥る。
樋村 メルトダウン。そして、水素爆発。

水素爆発の映像。

但峰 そう。これこれ。
壬生 魔法粒子でそこら一体が汚染される最悪の事態。それでも人はネフィリムを捨て去ろうとしない。
滝野 当たり前だろう。ネフィリムにどれだけの企業が関係していると思うんだ。
石間 毎年膨大な国家予算がつぎ込まれている美味しいシノギだ。おいそれとは捨てられるわけがない。
但峰 でたな。石間組。
大念 国家予算という甘い汁だけで生きているダニ。
石間 ひどいなあ、その言いぐさ。
滝野 俺たちは、政府の意向を汲んで動いているだけでしょう。
但峰 制御不能に陥ったネフィリムの問題隠蔽と反ネフィリム運動の沈静化。そのためには殺人もいとわず。
石間 だって、それがシノギだもん。殺戮天使の皆さんだって、仕事でグリゴリ殺しているわけでしょう？
秦 だから、殺してるわけじゃねえって。

壬生 待って、待って、つーか、ネフィリムは本当に必要だと考えてるの？
滝野 それが政府の意向である限りはね。
棚橋 承伏できないな。
石間 （にっこりと）見解の相違だね。
棚橋 それ、笑って言うことか！
その他 まあまあ。
秦 あの大洪水を生き延びたグリゴリ。第一章ではタミエルを、第二章ではサタナイルを昇天させた。

タミエル、サタナイルの映像。

壬生 苦勞の末にね。
秦 つーか、いい歳して、着ぐるみと本気で格闘したぞ、俺。
みんな 着ぐるみ、言うな！
樋村 俺たちの活躍により、グリゴリも次々と昇天し、残っているのはたったの二人だけ。
秦 そう。アルマロスとシェムハザイだ。
大念 シェムハザイって？
アルマ グリゴリのリーダー。すべての魔法使いの元祖とも称される。誰もシェムハザイを倒すことなんかできない。
樋村 すべての魔法を無力化するタリスマンの力を持つアルマロスを凌駕する存在……。
アルマ タリスマンじゃなくてチャームって呼んでるんだけど。
樋村 はいはい。チャーム。
棚橋 で、シェムハザイの魔法って……。
秦 なあ、匡子？ お前、シェムハザイをすでに見つけているなんてそんなことはない？
壬生 見つけた……といえば、見つけたかもね。
その他 マジで？
壬生 テレビで国会中継見てた時にね。
その他 （指差して）国会中継？ 見てるの、いつも？

スクリーンに投影される国会中継の写真。安倍晋三に耳打ちしている一人の女。

壬生 安倍晋三に耳打ちしているこの女。
棚橋 イントロスコピーで、翼が見えた？
壬生 テレビ画面を通してだから自信は持てないけど、見えたような気がして。気になって調べてみたんだけどね。彼女、ネフィリム安全委員会にも強い発言力を持っているみたいなの。鹿児島の川内（せんだい）と福井の高浜、そして愛媛の伊方、三つのネフィリムの再稼働を強引に推し進めたのは……。
樋村 こいつか？
壬生 そのようね。
秦 臭いな。シェムハザイである可能性がプンプンだな。で、こいつの名前は？

壬生 名前は、挟井栞（はざい・しおり）。
その他 挟井栞？
但峰 名字と名前逆転したら、シオリ・ハザイ？
大念 シオリハザイ、ショリハザイ、シェムハザイ……。
みんな （アルマロスを指差して）グリゴリの人！
但峰 そこまでして自分の名前の語感残したいわけ？
大念 もろにばれればじゃーん。
棚橋 どうしてもうちよっとひねらない？
アルマ ひねらないところが、グリゴリ・クオリティ。
その他 どんなクオリティだ！
秦 まあ、強力な魔法の使い手でもあるし、逃げ隠れをすることもないということだろうな。（時計を確認して）さてと、そろそろ時間か？ と言っても、俺の時計、2 時 46 分でぴたっと止まってるんだけどね。そんなことはさておき、そろそろ始めますか、「Unbreakable 最終章 元悪徳警官・棚橋晃の章」。

と、パイプ椅子から腰をあげ、それをたたんで皆が退場する。
それと入れ替わりに舞台前面に登場する一人の女。んっ？ スクリーン上で晋三に耳打ちしていたその人では？ つまり、挟井栞だ。

挟井 ねえ、聞いた仮処分決定の話。折角、営業運転を始めることができたっていうのに高浜のネフィリムに制御棒が差し込まれることになったわ。

舞台後方段上に現れる一人のヤクザの男。ガタガタと震えている。

挟井 電気料金の値下げも先送り。反対派を黙らせるのがあなたの仕事じゃなかったっけ？
男 挟井さん。本当にすみません。隣の滋賀県からの訴訟だったので、対処が遅れまして……。

挟井 隣も、はす向かいも関係ないでしょう。お蔭で、決定の取り消しを求める保全異議や、仮処分の効力を一時的に止める執行停止を申し立てることになったわ。いえ、それだけじゃない。ネフィリムの再稼働は可及的速やかに、且つ確実に進めるべき、というのが政府の考え方よ。この失態が、今後の大飯（おおい）や玄海（げんかい）その他のネフィリムの再稼働に与える影響は大きい。

男 しかし、高浜のネフィリムの 4 号炉も、送電作業中のトラブルで緊急停止したっていうじゃ……。

挟井 それとこれは関係ない。結局仮処分で動かせなくなったことには変わらないし。
男 だけど……。

挟井 福井の反ネフィリム対応は他の団体にお願いする事にしたわ。

男 挟井さん、ちょっと待ってくれ。

挟井 待てない。もう決定したの。あなた方は用済みよ。

男 この借りは返すから……。

挟井 借りを返す必要はない。

挟井があやとりでもするように両手を器用に動かす。
と、男が首をかきむしるように苦しがる。

男 なっ、うぐぐ、苦しい……。

挟井 あなたに必要だったのは、首を洗って待っていることだけ。

男 首ぼあだう……って……。

挟井が両腕を鞭のようにしならせ、クロスするかのように振る。
と、男の首が断ち切れて、回転しながら後方に吹っ飛ぶ。

挟井 さてと、次は福島か……。

挟井が退場するのにオーバーラップして、叩き付けるように響き渡る
Unbreakable/Fire flight。
そう。オープニングムービーが始まったのだ。

1. 悩める男・怯える男

オープニングムービーの終了とともに、舞台上に現れる但峰。
それを追い掛けるようにして現れる秦。

秦　だからさ。ちょっとおじさんの悩みを聞いてくれても良くない。
但峰　樋村さんにでも、棚橋さんにでも相談すればいいじゃないですか、おっさん同士で…
…。
秦　ヤツらには相談できないから、こうして大介君に……。
但峰　なんで僕が秦さんの話し相手にならなきゃならないんですか？　こう見えても壬生法律事務所の弁護士なんですよ。結構仕事が溜まってたりするんですよ。あっ、そうそう。壬生先生なら、ちゃんと相手して……。
秦　匡子もダメ。これは男と男のお悩み相談だから。実はさ……。
但峰　何なんですか、気色悪いな。
秦　実はな……弾切れしちゃったみたいなんだ。
但峰　弾切れ？（ちょっと悩んで、手を叩く）あっ、赤い玉出ちゃったってこと？
秦　いや、赤い弾は出てないけどさ。えっ、最後に赤い弾がでるわけ？
但峰　そう言いますね。最後に赤い玉が出て、これで打ち止めって……。でも、秦さんってそんな歳でしたっけ？
秦　歳は関係ないだろう。つーか、赤い弾が出てないってことはまだ大丈夫かもってことかな……。
但峰　良かったじゃないですか。秦さんも、これで悪さする来も起きなくなったでしょう。
秦　悪さ？
但峰　女の子に。
秦　なんで？　俺たち話、噛み合ってる、今？
但峰　だから、赤い玉が出ちゃったってことでしょ。
秦　違うの。赤い弾は出ていない。弾そのものが出なくなっちゃったかもってことなわけ。
但峰　出なくなちゃったんでしょ？　そう言うのを「赤い玉が出た」って表現するの？
秦　だから、出てないって赤いのなんか！

と、登場する大念。

大念　なに、大介君。おっちゃんと喧嘩？
但峰　違う、違う。秦さん。赤い玉出ちゃったんだって。
大念　赤い玉って？
但峰　（大念に耳打ちする）
大念　ええええっ！（と、驚くが、興味津々に秦に顔を寄せ）おめでとう、秦さん。赤飯炊かなくちゃね。
但峰　えっ？　赤い玉出ても赤飯炊くわけ？　それどこのローカル・ルール？

秦 だから、赤い弾は出てなくて、弾自体が……。

と、壬生が登場。

壬生 博。とうとう赤い玉出たのか、おめでとう。

秦 って何なの、みんな。

但峰 壬生先生。お帰りなさい。仮処分決定おめでとうございます。

壬生 策を練り上げただけはあったわね。動き出した高浜のネフィリム3号炉と4号炉を停止することができたわ。とはいうものの、高浜の1号炉、2号炉の運転延長は、依然差し止めできず。状況はまだ楽観視できないって感じよね。

大念 とにかく、お疲れ様でした。で、どうでした、福井？

壬生 福井じゃない。行ってきたのは隣の滋賀県。その差し止めを出したのは大津地裁よ。

はい。お土産の滋賀名物、鮎寿司よ。

大念 （受け取って）好き嫌いが真っ二つに別れそうなラインを的確に突いてきますね。

と、舞台後方台上に明かりが切り替わる。

パピヨンを抱えた石間が現れる。だが、ロボットみたいな動きだ。棚橋直伝のロボット・ダンスか？ いや、違いそうぞ。

追って現れる滝野。

滝野 どうしたんですか、オヤジ。ロボット・ダンスですか？

石間 ば・か・や・ろ・う！ 誰・が・ろ・ぼと・たん・す・なんか……（と、ロボット・ダンス風の硬い動き）。

滝野 やっぱりロボット・ダンスの練習ですね。

石間 違う。恐怖で強張ってるんだ！（←ここも、ロボット・ダンス風）

滝野 恐怖でロボット・ダンス？

石間 聞いたか、福井の川内組の……。 （←ここも、ロボット・ダンス風）

滝野 はい。あれでしょ、仮処分決定。それを未然に防げなかったらしいじゃないですか。でも、そのお蔭で首が派手に吹っ飛んだらしいですね。文字通り。えぐい殺し方するもんだと……。

石間 あれをやったヤツのことは？（←ここも、ロボット・ダンス風）

滝野 さあ、組長がマジギレしてって、展開ですかね？

石間 違う。あれやったのは挟井だ！（←ここも、ロボット・ダンス風）

滝野 挟井？ ああ、今度こっちに出張って来るアルマの仲間の……。

石間 そうだ。もし、農らが失敗でもしたら（←ここも、ロボット・ダンス風）

滝野 （ちょっと考えて）首ちょんぱですかね？

石間 （ガクガク頷く）

滝野 怖いですね。

石間 怖いどころじゃねえ。だから震えてるんだろ（←ここも、ロボット・ダンス風）

滝野 首吹っ飛ばされたのは、組長ではなく、若頭でしたよね……。 （考え込んで） ってこと

は、ヘタ打った時に、文字通り首飛ばされるのは、オヤジじゃなくて、俺？

滝野もやっと気付いたようだ。震えが足首から膝、太もも、腰、腹、胸、両腕へと登ってきて、顔面、頭頂部へと駆け抜ける。まるで、ロボット・ダンスだ。

滝野 は・は・は。こ・りゃ・し・く・じ・れ・ま・せ・ん・ね（←ロボット・ダンス風）

「アルマはどこだ？」「いざとなったらアルマに助けてもらおう」などと震えながら口にしつつ、ロボット・ダンスで退場する二人。

と、照明が舞台前方へ振り替わる。飛び込んでくる棚橋と樋村。

棚橋 おっ、匡子。戻ってたのか？

壬生 ついさっきね。

棚橋 樋村が情報を掴んだ。

但峰 石間組長の愛犬パピヨンに仕込んだアルゴス。

大念 魔法で動く盗聴器で。

棚橋 そうだ。

壬生 で、掴んだ情報は？

樋村 ヤツがここにやってくる。

壬生 ヤツ？ ヤツって……。

樋村 挟井菜。シェムハザイだ。

壬生 ここに来る目的は？

樋村 定かではないが、ネフィリムに関わることに間違いはない。

壬生 でしょうね。実はひとつ気になる情報があつてね。福井で反ネフィリム運動を抑え込んでいた……。

棚橋 川内組の若頭が殺されたってやつだろ。首が胴体から完全に切り離されていたって。

大念 えぐいね。

但峰 まさか、高浜の仮処分決定に絡んで。

樋村 そうだ。

棚橋 （一人項垂れている秦に気づき、壬生に）おい、どうしたんだ、秦は？

壬生 あっ、忘れてた。博はなんだか、赤い玉が出ちゃったみたいよ。

棚橋 赤い玉？ おめでとう。これでご卒業だね。赤飯炊かなくちゃ。

但峰 赤い玉出て赤飯炊くのって、それどこのローカル・ルール？

秦 だから、みんな何を勘違いしているのかな？ 赤い弾は出てないの？ 弾が出なくなっちゃったっぽい。

棚橋 だからそれって、赤い玉が出たってことだろ？ 最後にぽろりと出るらしいぜ、赤い丸い玉が……。

秦 丸い？

但峰 そう。丸い玉。

秦 丸い玉じゃなくて、俺が言ってるのは弾だよ。アマダスの弾丸だよ。

樋村 ちょっと待て！ アマダスの弾丸が出なくなった？
秦 みんなには内緒にしておこうと思ったんだが、隠したって仕方ない。アマダスの弾丸
 が出なくなった。サタナイルとの戦闘以降……。
大念 天使も殺せるアマダスの弾丸……。
但峰 それなしで、どうやってグリゴリと戦うわけ？
秦 困ったよね。でもさ、魔法には限りがあったということなんだね。
樋村 翼をもがれて、展開から突き落とされたあの時、確かこう言われたはずだ。魔法を 108
 回使って功德を積みば、天界に戻れるかも……。
大念 なに、108 回って？
棚橋 煩悩の数だろう？
大念 天使なのに、煩悩？ で、功德積むわけ？
秦 魔法が三回まで使えますなら、大切に使う。でも 108 回って言われたら、いちいち勘
 定なんかしないだろ？ とにかく俺が持っているアマダスは、アルプと戦った時に作
 り出した剣ひとつだけ……。
棚橋 でもさ、剣ひとつでどうやって、最強のグリゴリ、シェムハザイに立ち向かえって言
 うんだ……。って、待てよ！（曇っていた表情が満面の笑みに変化する）この限界状
 況……。
大念 どうした、おっちゃん？
棚橋 この追いつめられた状況の中、秘められた俺の魔法が覚醒するって展開だな！
但峰 そうかも知れないですけど……。棚橋さんの魔法って、何？
棚橋 はて？

棚橋の史上最高のボケ面。
ゆっくりと闇になる。

2. アルマロスだって混乱するだろ

舞台後方台上にアルマロス。ロリポップキャンディをなめながら、つまらなそうに語り出す……

アルマ　ねえ、嘉剛。全知なる者。あなたはそこにいるんでしょ？

袖寄りに立つ嘉剛に明かり。

アルマ　ねえ、教えて？　天は私からすべてを奪い去っていくの？　私はひとりぼっちになるの？

嘉剛　ひとりぼっちになるのが怖いのか？

アルマ　（笑って）怖いに決まってるじゃない。

嘉剛　それを恐れてはいけない。

アルマ　どうしてそういうことを言うの？

嘉剛　それは君自身が見つけ出すべき答えだ。私にその理由を告げることはできない。

アルマ　どうして？

嘉剛　私には権利がないのだ。それを言える立場にはない。私は、死に行く運命にあるからだ。（ポケットから弾丸を取り出し）秦から受け取ったアマダスの弾丸。私はこれで、安らかに眠ることができる。拳銃だって手に入れた。（と、腰からリボルバーを引き抜く）

アルマ　死ぬんだ。

嘉剛　そうだ。だが、今ではない。

アルマ　ねえ、全知なる者。最後には私も死ぬの？

嘉剛　（頬を緩め）難しい問い掛けだ。

アルマ　単純な質問だと思うけど。

嘉剛　答えるのが難しいのだ。アルマロス、お前にとっての死とは何だ？

アルマ　死は、死よ。ただそれだけ。

嘉剛　こう考えたことはないか？　お前の死はこの世界の終焉を意味する、と……。

アルマ　当たり前じゃない。私が死んだら、この世界を知覚できなくなる。

嘉剛　そうではない。世界は魔法でできている。すべての魔法を無力化できるお前は这个世界すら無力化できる。そう考えてみたことはないのか？

アルマ　あるわけ無い。っていうか、この世界を無力化してどうなるっていうの？

嘉剛　瞼を閉じてみろ。そして護符（タリスマン）の秘術をこの世界の一点に向けてみろ。何かを感じないか？

アルマ　何も……。

嘉剛　そうか。私はお前のそばに來ると知覚することができる。別の世界の記憶を……。

アルマ　（怪訝そうに）別の世界？

嘉剛　お前の護符（タリスマン）の秘術が、この決して壊れることのない魔法世界の一部を

浸食し、小さな穴を穿つ。

アルマ 別の世界の記憶？

嘉剛 そうだ。この魔法世界とは別の世界。そこでは、私には一人娘がいた。名前はルカ。

アルマ ルカ？

嘉剛 アルマロス、瞼を閉じろ。ルカの話をしてやろう。

アルマロスが瞼を閉じると、スクリーンに投影される発電所の映像。と、他方に女の子が現れる。ルカなのだろう。その表情は陰になっていてよく見えない。

ルカ ねえ、パパ。あの発電所はどうやって動いているの？

嘉剛 魔法さ。ウラヌスという鉱石が持つ魔法の力で発電しているんだ。

ルカ ウラヌス？

嘉剛 我が子に刃を向けられて、王位を追われたウラヌスの慟哭が込められた鉱石だ。ウラヌスはその悲しみゆえに、自然と発熱する。

ルカ パパは魔法使いなの？

嘉剛 （首を横に振り）天界から墜ちてきた天使達の話をしたことがあったかな？

ルカ （頷いて）グリゴリ。地に降りた 200 人の墜天使達。

嘉剛 パパはそのグリゴリから、あの技術を伝えられたんだ。

ルカ そんなこと、あるわけないよ……。

嘉剛 （頬を緩めて）ルカが信じようが、信じまいが、あれは魔法だ。グリゴリが人類に伝えた天界の秘術……。そして、ルカは私の言葉を信じた。心の底から信じたのだ。

アルマ ねえ、全知なる者。今のは何？ ねえ！ 穴って……さ。

アルマロスが目を開く。呼びかけるが、もう嘉剛はいない。

アルマ って、もういないし……。私の魔法が、この世界を無力化する？ なんなんだそれ……。つか、ルカ、一体、あんた誰？

ルカ 私？

アルマ そうだよ。

ルカ 私は……あなた。あなたは私……。

歌うように台詞を口にして、ゆっくりと瞼を閉じていくルカ。

遠くから響き始めるパルス音。音に気付いて、まわりに視線を飛ばすアルマロス。

アルマ 何、この音？ （ルカに）ねえ、何なの、この音？

ルカは瞳を綴じたまま答えない。その表情は安らかな寝顔にも見える。
ゆっくりと暗転していく舞台。

3. 赤い弾が出て、棚橋は思い出す

暗闇の中、壬生の声が聞こえてくる。「だから、手首から指4本分肘に近いところ。そうそう、筋（スジ）の間のそのポイント……」

ゆっくりと明るくなる。秦が手首のあたりを親指で揉んでいる。傍らに壬生と樋村。

秦 ここか？

壬生 親指の腹を押しつけるようにしてゆっくりと揉む。そう、そんな感じで……。

樋村 効くのか、こんな「まじない」が？

壬生 それが効くのよ。「間使（かんし）」っていう即効性のツボなのよ。

樋村 即効性？

壬生 出ないときにね。

秦 出ない時って？

壬生 そのツボ揉んだらもう速効よ。便秘の時に……。

秦・樋村 便秘じゃないから。

秦 宿便じゃなくて、アマダスの弾丸が出ないわけだから。

壬生 似たようなもんじゃないの？

樋村 違うと思う。

秦 俺も違うと思うけど、揉んでみるか……。

樋村 結局、揉むのか？

飛び込んでくる大念と但峰。

但峰 壬生先生。

壬生 どうだった？

但峰 （曇った表情で首を横に振り）鹿児島島の川内ネフィリムの運転差し止め仮処分を福岡高裁が棄却しました。

壬生 ギリギリでの再起動回避は無理になったってこと？

但峰 残るは最高裁への特別抗告ですが……。

壬生 （ため息をついて）分が悪いね。

大念 80kmも離れていない場所であれだけの災害があったって言うのにさあ……。ねえ、熊本のはあれは、偶然？ それとも、天界の意図？

壬生 鹿児島島のネフィリムの再稼働に合わせたように、その近くでの大規模地震の発生。偶然に起きたと考えるには……。

秦 そうかもな……。

大念 （秦が腕を揉んでいるのに気づき）どうした、おっちゃん？ 腕痛めたのか？

秦 ツボ揉んでるんだ。アマダスの弾丸が出ることを祈って。

但峰 ツボ？

壬生 間使（かんし）のツボ。速攻で効く。

樋村 便秘には、な。

但峰 便秘のツボ？

大念 そんなもん、揉んでどうする？

秦 どうしようもないから揉んでるわけでしょ。

大念 大変だな、おっちゃんも……。

秦 確かに大変だ。心配でこの胸が張り裂けそうさ。まあ、アマダスの弾丸が出ないことも不安だが、どうも地震の起きた場所が気にかかってしかたない。メディアン・テクトニック・ライン、中央構造線。関東から九州までつながる日本列島を横断する大断層だ。それは日本列島の背骨と言っていい。

樋村 もろすぎる背骨ってわけか。

秦 （頷いて）あの直下型地震はこの背骨の西の端で起きた。人間でいえば背骨の腰側の端、仙骨のあたりで発生したことになる……。

但峰 さすが、地震学者！

秦 元な。（鋭く但峰に突っ込んだ後、みんなに）中央構造線。シェムハザイが再起動を目論む伊方のネフィリムはちょうどこの背骨の上にある。

大念 まさか、伊方が次の標的？

大念 だけど、偶然にしても、タイミングが合いすぎている？

壬生 まさか、天界はこの国の背骨をへし折ろうとしているんじゃない？

秦 そんなことはないと思いたい。

壬生 でも、天界はあの洪水を引き起こしたわ。グリゴリを殲滅するためには手段を選ばないといったやり方で……。

樋村 つまり、俺たちがグリゴリを殲滅しない限り、今度は伊方で大災害が起きる？

秦 そんなシナリオを天界が書いていたとしたら……。なあ、伊方の再稼働はいつだ。

但峰 反応炉の中へのウラヌスの異動は完了しています。再起動開始は明日……。

樋村 明日。ちょっと待て、急すぎるだろう、それ。

壬生 その間に、私たちがシェムハザイとアルマロスを昇天させない限り、それは起きる。

秦 そんなことはさせない。

大念 どうやって？ シェムハザイは、手の先から糸を紡ぎ出して、人の首をくぶり切るんでしょう。あれは何なんですか？

壬生 あれはクロコス。〈運命の糸〉の秘術。指の先から紡ぎ出される赤い糸はしなやかなんだけど、簡単に断ち切ることは出来ない。それを断ち切ることが出来るのは、それはシェムハザイが持っているアトロポスの鍔だけ。

但峰 それじゃ、どうにもならないじゃないですか？ どうやって倒すんですか？

大念 アマダスの弾丸もないのに……。

秦 今回は棚橋という主役がいるだろ。未知の力を秘めた男が……。

大念 （つい吹き出す）

但峰 楓ちゃん、そこ吹き出しちゃいけないところでしょ。（と窘めるが、きょろきょろし）
っていうか、当の棚橋さんは？

大念 あっ、そういえば、いない。何処行ったの？

樋村 今回、棚橋は主役なんだ。本シリーズでは、主役は基本的に単独行動が多くなる。

壬生 その上、大量のモノローグもある……。

但峰 大丈夫かな、台詞？

秦 大丈夫。俺よりは台詞覚えはいい。

大念 秦さんより台詞憶えの悪い奴はなかなかいないと思うよ。

秦 言うな、それ。おっさんだって傷つくときは傷つく。(と、唐突に叫ぶ) あああっ！

大念 どうした？ 台詞忘れた？

秦 違う。来た！ 匡子、来たぞ。ツボへの刺激が効いた！

壬生 トイレはあっち。

秦 違う。そっちじゃなく、アマダスが、出そう。待て。来た。うーっ (と、りきむ)

樋村 あんまり、りきむな。アマダスじゃなく、違うものが出ちゃうかも……。

但峰 秦さん。トイレでやりましょ、それ。なんだか危険な香りがする。

秦 (りきんで、叫ぶ) アマドアースウ！ (振り上げた拳を勢いよく振り下ろし、静止する)

樋村 秦？

壬生 大丈夫？

但峰 身が出た？

大念 大介君。ウエットティッシュ！

秦 出た。アマダスの弾丸だ。

秦がゆっくりと手を開くと、手のひらの上に弾丸がひとつ乗っているのが分かる。
が、秦が目丸くして、それをつまみ上げる。弾の部分が真っ赤だったのだ。

秦 あああああっ！

樋村 赤い弾!?

壬生 まさか、これで打ち止め？

但峰 本当に出るんだ、最後に赤い弾が……。

大念 秦さん、おめでと。赤飯炊かなくちゃ……。

但峰 ……って、だから、それ、どこのローカル・ルール？

平手打ちのように暗転。後方台上に現れる棚橋。継いで現れる嘉剛。

棚橋 なあ、嘉剛。あんたは全知、すべてを知る能力を持っているんだってな。

嘉剛 そう。オムニコグニション。それが私の能力だ。

棚橋 じゃあ、聞か。俺の魔法って何だ？

嘉剛 お前の魔法？ そんなに気になるか？

棚橋 当たり前だろう。一体全体、俺の魔法って何だ？ グリゴリを討つために地上に墮とされた天使は、みな魔法の力を持つ。匡子はイントロスコピー、人と天使を見抜く力。樋村は〈天空の目〉、そして秦はアマダスを作り出す魔法……。

嘉剛 秦は魔法の力を失いつつあるようだが……。

棚橋 本当にそうなのか？

嘉剛 （ポケットから弾丸を取り出して、愛おしく見つめる）天使も殺すアマダスの弾丸。秦の能力が消え入る前に受け取ることが出来て、よかったよ。

棚橋 それでお前自身を昇天させようって腹か？ 殺戮天使として地上に墮とされたって言うのに……。戦うのを躊躇っただけじゃなく、自分の命を……。

嘉剛 （にっこりと微笑んで）そうだ。

棚橋 にっこりと微笑みながら言うことか、それ？ でも、死にたいなら、死ねばいい。だが、死ぬ前に教えてくれないか？ 俺が授けられた能力って何だ？ 秦の能力が消え入るこのタイミングで、俺自身の能力が目覚めるって展開じゃないのか？ だって、今回は俺が主役ってことだし。俺の魔法が世界を救うって脚本に違いない。

嘉剛 そう思うならその覚醒を待てばいい。先に知ってしまったら、ドキドキ感がないだろう？

棚橋 そりゃ、そうなんだが、気持ち的に待ってられないっていうか。こっそりとヒントつか、さわりだけでも。翼をもがれた代わりに、与えられた俺の魔法は……。

嘉剛 棚橋、翼をもがれた時の痛みを覚えているか？

棚橋 ああ。忘れるもんか。

嘉剛 では、あの洪水の時の思い出はどうだ？

棚橋 洪水の？

嘉剛 秦はあれで信頼していた大学の同僚を失った。東日本技科大助教、早坂朋美……。

棚橋 秦が？ （深く息をつき）そう、だったのか……。

嘉剛 樋村は、あの洪水で、愛する娘を失った。血はつながっていなかったが……。

棚橋 その上、その愛した女、純奈までを失うことになった。

嘉剛 お前はあの洪水で何を失った？

棚橋 俺が失ったもの……。言葉に詰まる）なあ、どうしてそんなことを聞く？

嘉剛 ヒントが欲しいと言ったのは、お前だろ？ 思い出の中にそれはある。ほら。（と、一降りの釣り竿を棚橋に渡す）

棚橋 （つい、釣り竿を受け取って）釣り竿？

嘉剛 そう。聞かせてくれないか、お前の思い出を……。

カモメの鳴き声。嘉剛へのサスが消え入る。防波堤らしき場所の映像が投影される。棚橋、釣り竿を振る。と、傍らに現れる制服姿の女の子。ルカである。

ルカ 釣れてる？

棚橋 釣れてるも何も、今来たばかりだ。

ルカ 今日もきっと、ボウズに決まってる。だって、晃君、釣る気がないんだもん。

棚橋 おっさんに向かって、晃君なんて気安く呼びかけっるんじゃない……。

ルカ （聞いてない）晃君は、ただ青空の下でぼーっとしていたいただけだもん。だって、今朝までずっと牢屋に閉じ込められてたんでしょ？

棚橋 牢屋じゃない。留置場だ。それに俺は閉じ込められている訳じゃない。

ルカ でも、言ってたじゃん。一度留置場に入ったら、看守も翌日の朝に交代要員がくるまで24時間閉じ込められるって。

棚橋 まあ、そりゃそうだが。
ルカ 大変だよな、看守も。釣る気ないのに、釣り糸をたれたくなる気持ちも分かるよ。
棚橋 正しくは、看守じゃなくて留置場管理官と言う。看守は警察じゃなくて法務省管轄の
刑務官を指す言葉なんだ……。
ルカ なんだっていいじゃん、そんなの。難しすぎるし……。
棚橋 まあ、拘留中のみんなは、俺のことを「担当さん」って呼ぶけどな。
ルカ 担当さん？
棚橋 そう。「担当さん、お茶！」、「担当さん、紙！」とか、そんな感じだ。
ルカ 紙って？
棚橋 トイレで使う紙だ。トイレトペーパーは完備されてない。口に詰めて窒息死されて
もしたらかなわないからね。で、その都度、紙を支給するわけ。
ルカ （笑って）それって看守の仕事？
棚橋 だから、看守じゃなくて「担当さん」……。

照明が棚橋だけとなる。

棚橋 担当さん……。留置場の管理は二名で行われる。前途有望な若手と未来のない俺との
デコボコ・コンビだ。前途有望な若者の名前は橘（たちばな）。花形の刑事課配属直前
の警官だった。刑事課へ配属される前に、若い警官は何故だか留置場管理課で経験を
積まされるというのが慣例となっている。もしかしたら、ここでの留置者、つまり容
疑者とのたわいない会話内容を刑事課に吸い上げるスパイとして送り込まれているの
かも知れない……っていうのは、げすの勘ぐりか？ ただ、ここでの情報が刑事課に
だだ漏れになっているのは事実だ。橘はこの春、結婚する。刑事課庶務係長の娘さん
とだそうだ。良くある署内見合い、警察公認の良縁ってやつだ。

男の声が響く。橘だ。

（橘） 今度の結婚式ですが、双方の家の数合わせで、やはり棚橋さんをお呼びすることがで
きそうにないんですよ。
棚橋 ああ。まあ、刑事課との兼ね合いでいろいろと大変だろ。まあ、なんか、結婚祝いを
送るよ。
（橘） すみません。でも、落ち着いたら新居に遊びに来て下さい。和美にも会って頂きたい
ですし。
棚橋 たしか、海の側の見晴らしの良い場所にお洒落な家を建てたって言ってたな。ああ、
今度時間を作ってお邪魔するよ。ところで、刑事課への異動はこの春か？

と、傍らの女の子が声を上げる。照明が元に戻る。

ルカ ねえ、引いてるよ。
棚橋 （泡を食って合わせようとする）おっ、でかいぞ！（と、ばれちゃう）ありやりや。

ルカ ぼけっとしてるから逃がしちゃうんだよ。

棚橋 君が言うとおりに、端っから釣る気なんてないからさ。

ルカ ただ、青空の下で海を眺めて、ぼーっとしたいだけでもね。

棚橋 まあ、そういうことにしておくよ。確かにそれが、俺がここにいる理由だ。で、君はどうなんだ？ どうしているもここにきている？

ルカ 私？

棚橋 そうだ。高校生がこんな時間に……。

ルカ だって、高校行ってもつまんないんだもん。もう大学の推薦だって決まってるし、行く意味がない。

棚橋 ん？ 友達いないのか、君？

ルカ ぐさっと痛いところ突いてくるなあ。でも、図星。友達って友達はいないかも。みんな子供っぽくてつまんない。晃君と話している方が、よっぽど楽しい。

棚橋 だから、晃君なんて言うな！

ルカ 私ね。理系の大学行くの。地学。

棚橋 地学？

ルカ 地質とか地震とか、プレートテクトニクスとか……。

棚橋 良く分かんないけど、すげえなあ。理系女（りけじょ）じゃん。

ルカ その大学に地震の研究をしている面白い地学の先生がいて、私、その研究室に入りたいんだ。

棚橋 地震の研究？

ルカ うん。地震の予知がしたい。その先生は「無理だ」って笑ってたけどね。あのね、パパが物理学者なの。だからかも。なんだか自然に理系選んじやった。パパのことそんなに好きじゃないのに、なんか変な感じ。

棚橋 パパがあまり好きじゃない？

ルカ っていうか、パパは仕事ばかりで、私のことなんかそっちのけなんだ。パパね。あそこで働いてるの（と、どこかを指差す）。

棚橋 あそこって？（目を眇めて）まさか……。

ルカ そう、あの発電所。その偉い人みたい。で、ママがいなくなっからは、ますます仕事一辺倒。ほとんど家に帰って来なくなっちゃった……。

棚橋 ママが、って？ 離婚？

ルカ （ゆっくりと首を横に振り）私が14歳の時に、白血病で……。

棚橋 すまん。変なことを聞いて……。

ルカ いいの。仙台にいけば、距離が取れたら、きっと上手く行く。

棚橋 仙台の大学に行くのか？

ルカ うん。そう。でも、本当はもっと遠くへ行きたいの。ここから離れてもっと遠くへ。海の向こうへ。ここじゃないどこかへ。船で出航するの。

棚橋 船？

ルカ （下方を指差して）見える、あれが私の船。

棚橋 波打ち際に何かが見えた。イカダか？ ポリタンクを縄で縛って板を乗せ、ダンボールで装飾された船のような「がらくた」だった。お世辞にも海にこぎ出せるようには

見えなかった。板の真ん中には節くれた枯れ木が突き刺さっていて、その先端で黒いボロ切れが風にはためいている。黒地の布に白いどくろのマーク……。

ルカ 海賊旗。ジョリーロジャー。

棚橋 海賊？ つーか、ワンピースか？

ルカ かもね。

棚橋 いつもここにきて、あれを作っていた訳か？

ルカ そう。廃物利用の船。エコロジー感炸裂のカーボンリサイクル。究極のゼロエミッション！

棚橋 言っているタームは理系っぽいけど。あの船の造作、理系にあるまじき不器用さだな。

ルカ そこんところは大局に見てよ。

棚橋 大局に見れない。

ルカ 見てよ。いい、晃君、私は海賊になって、ここを抜け出すの。

棚橋 だから、晃君って呼ぶな！

ルカ （聞いていない）この街から、どこか遠くへ！ 帆を上げよ、晃君！

棚橋 は？

ルカ は？ じゃないよ。「宜候（よーそろー）」でしょ？ 晃君は二等航海士。そして私が船長。船長の指示には「宜候（よーそろー）」（と念を押す）。

棚橋 （仕方なく）よーそろー。

ルカ 声が小さい！ 面舵（おもかじ）一杯！

棚橋 （仕方なく）よーそろー。

ルカ 声が小さい！

棚橋 （やけくそになって）よーそろー！

ルカ 面舵一杯！

ルカが叫んで退場する。棚橋がサスの中で独りごちる。ゆっくりと嘉剛へ明かり。

棚橋 彼女は楽しげな声を張り上げる。ここじゃないどこかへ。どこか遠くへ。

嘉剛 その娘は笑顔で声を張り上げていたのか？ 母親を亡くしてからと言うもの、誰とも言葉を交わそうとしなくなったその娘が……。実の父親との会話も拒んだその娘が、そう楽しげに叫んでいたのか？

棚橋 ああ、楽しげに叫んだ。ここじゃないどこかへ。どこか遠くへ。でも、本当に行きたかったのは、そんな場所ではなかったんじゃないかな。どんなに高性能の船でも、行き着けない場所。きっと、がらくたの船だけが到達できる場所……。

嘉剛 彼女の名を憶えているか？

棚橋 ルカ……。彼女の名前はルカ。

唐突に墜ちてくる闇

4. 石間組の苦労は絶えないのだった

明転すると、忙しく歩き回っている石間と滝野。
舞台中央には挟井が立っている。

石間 何処行っちゃったのかなあ、アルマは……。
滝野 (携帯をとりだして) 青木! アルマが見つかったか……つーか、早くしろ。
挟井 別に急いでアルマロスに会いたいわけではない。
石間 でも、ですよ。アルマは会いたいはずですよ。挟井さんに……。

挟井が言葉を遮るように片手を挙げると、石間は大層ビックリする。

石間 あー、びっくりした。首ちょんぱ、されたかと思った。
挟井 (笑って) どうして? 何故、私があなたを殺さなければならないの? 私が来たのは、あなたの首を切り落とすためではないわ。
石間 ですよ。まずは滝野の首ですよ?
滝野 そりゃないっすよ、おやじい。
挟井 クロコス(運命の糸)の秘術をあなた方に使うことはないわ。
石間 クロコス?
挟井 指先から紡ぎ出される運命の赤い糸。それは人の命まで断ち切ることが出来る。
石間 ひょえー。まさかパピヨンの命も?
挟井 命ある者はすべてよ。
石間 パピヨンちゃん。絶対このおねえさんに吼えたりしちゃダメだぞ。きゃんきゃん(と、パピヨンの首をガクガクと振る)
挟井 (首を横に振り) そんなことしたりはしないわよ。心配しないで。私たちが憂慮すべきはそんなことじゃない。九州、関西を中心にネフィリムの再稼働が逐次予定されているのはご存じの通り。ただし、私たちのたゆまぬ努力にもかかわらず、その進行は遅々として進まず。様々な問題まで噴出してくる始末。
滝野 大津地裁の仮処分、ですか?
挟井 そう。それもこれも、元凶はここなのよ。ここのネフィリムの問題が片付かない限りは、何も先に進まなくなっている。
石間 我々も頑張っているのですよ。汚染水の処理問題とかね。内陸直下型地震引き起こして、にわか作りの汚染水タンクを破壊して海にだだ漏れ、とかね。
挟井 だだ漏れ?
滝野 汚染水タンクが地震で破壊されれば、汚染水問題は一気に解決……。

と、挟井が右手を一閃し、滝野のお喋りを止める。

滝野 (息を呑み) ……結局、失敗しましたけどね。

挟井 良かったわ。それ、まかり間違えて成功していたら、あなた方の首は胴体から離れていたかも。

石・滝 失敗して良かったあ。(抱き合って喜ぶ)

挟井 しないけどね。いい？ もっと穏便に事を運ぶ必要があるの。メルトダウンしたネフイルムを一気にクリーンアップする妙案があるとしたら？

滝野 そんなことが、可能なのか？

挟井 科学の粋を集めて作られた汚染除去装置がある。

石間 うそ？

挟井 うそ。

石・滝 ずるっ。(と滑る)

挟井 いえ、実際に汚染の除去は行われるの。それとは違う、より効率的な方法で。

石間 より効率的？

挟井 ええ。

石間 どんな方法だ？ ねえ、勿体つけずに教えてよお。

と、背後の台上に現れるアルマロス。挟井がそれに気付いて。

挟井 お久しぶりね、アルマロス。元気そうでなにより。

アルマ シェムハザイ。

挟井 さあ、こっちへ来て。可愛い顔を良く見せて。

挟井、アルマの顔を撫でる仕草。

アルマ くすぐったいよ。

挟井 (と、アルマの頬に手を置いたまま、真顔になる) ねえ、アルマロス。グリゴリはどうとう私とあなたの二人だけとなってしまったわ。

アルマ ねえ、シェムハザイ。それは……。

挟井 本当よ。天界は、殺戮天使を地に放っただけでなく、大洪水まで起こして、殲滅しようとした。でもね。今が無慈悲なる天界に反旗を翻すときのなの。

アルマ たった二人で？

挟井 (微笑んで首を横に振る) 二人ではないわ。私たちにはたくさんの仲間がいるの。

アルマ たくさんの仲間？

石間 仲間って……。

滝野 グリゴリがまだ生き残っているってこと？

挟井 だから仲間よ。アーキタイプではないけど、私たちの仲間。

石間 儂とか……。

滝野 俺とか？

挟井 そうね。さらにはもっと血の濃い私たちの眷族。

アルマ けんぞく？

挟井 (噛んで含むように言う) 眷族。仲間の意味よ。ここにはすでに私たちの仲間が集ま

ってきているの。殺戮天使も、天界も、まだそれに気付いてはいないけど。

滝野　ここに集結？

石間　知らないうちに？

挟井　そうよ。あなた方もその時が来れば分かる。

滝野　その時？

石間　なあなあ、儼らだって味方なんだから、もう少し詳しいところを知らせてはもらえないもんかなあ。

挟井　そのうちにね……。ねえ、アルマ。そのためには、あなたの力が必要なの。

アルマ　私の力？

挟井　あなたの魔力が、どうしても必要なの。タリスマンの魔力……。

アルマ　チャームだよ。

挟井　そうね。チャームか……。ねえ、私とあなたは一心同体なの……。

と、舞台前方の明かりが停電でもしたかのように消え、後方のアルマロスだけのサスになる。アルマロス以外の登場人物がゆっくりと退場する。

アルマ　「私とあなたは一心同体」シェムハザイが言った、その時。あの音が響き始めた。

パルス音が響き始める。

アルマ　私の意志に反してチャームが強く起動する。シェムハザイの魔力を無力化するためじゃない。この魔法世界に穴を穿つため？ 私には分かった。シェムハザイと私は一心同体。もともとひとつのものだったってことが、分かった。じゃあ、元々のひとつで……なに？

ゆっくりと暗くなっていく舞台。
高鳴るパルス音。

アルマ　また、あの音……。

舞台奥台上に、いつの間にか、ルカが立っている。

アルマ　（ルカに）ねえ、この音は何？

ルカ　聞こえているの？ 私の耳を通じて、あなたにも届いているってこと。

アルマ　あなたの耳？

ルカ　だって、私はあなただもん。アルマロスはグリゴリの中で一番のお気に入りなの。すべての魔法をはねのける魔術、タリスマンの力。それって、とっても素敵。だから、私はあなたなの。

アルマ　ちょい待ち！ あなた、私のファン？ それもかなりコアな。つーか、アイドルに自らを投影して、分けわかんなくなって、んでもって、仕舞には「アルマ、私たちひと

つになろうよ……」とか、焦点の合わない目で、涎垂らしながら呟いたりする系？ それも刃を手に握りしめて……。

ルカ それじゃあ、頭のネジが飛んだストーカー？

アルマ うん。

ルカ （首を横に振って、笑う）

と、いつの間にか嘉剛が舞台に立っていた。

嘉剛 ルカと話が出来るのか？

アルマ （びっくりして）全知なる者。びっくりさせないでよ！ ねえ、どうして？ どうして私にはルカが耳にする音が聞こえるの？

嘉剛 音？

アルマ だから、この音……。

嘉剛 残念だが、私には聞こえない。

アルマ つーか、説明してよ。彼女はどこにいるの？で、どうして、ここに出て来たの？ っていうか、ルカはあなたの娘だったっけ？

嘉剛 お前の能力。タリスマンが、この世界に小さな穴を穿った。そう言わなかったか？

ルカ ねえ、誰かが私の身体を弄ったの。私の背骨の腰の端。仙骨に妻対何かを突き刺した……。

アルマ どういうこと？

ルカ 私はこのままでいたいのに。ここでこうしていたいのに……。

アルマ ここでどうして？ ここと？ ねえ……。

ルカがゆっくりと瞼を閉じる。

それに呼応するかのように高鳴るパルス音。

それにノイズにまみれたその音声が重なる。

「……意識レベルを示す GCS__グラスゴー・コーマ・スケールは依然 3……仙骨への電極設置に問題なし。脊髄後索電気刺激療法を開始……」

と、唐突に電気がショートしてスパークするような音。

ルカとアルマロスの身体が、感電でもしたように、一瞬硬直する。

と、暗転する舞台。

5. つーか、棚橋はどこだ？

秦と樋村、壬生がいる。その傍らに大念と但峰。

壬生 ……で、関西にいた挟井葉、シェムハザイは、すでにここに現れたってこと？

但峰 石間組長の愛犬パピヨンに仕込んだアルゴス……。

大念 その盗聴器が、シェムハザイの声を捉えた？

樋村 そうだ。それだけじゃなく〈天空の目〉で、ヤツの姿も捉えている。

スクリーン上に投影される〈天空の目〉の映像。

回転するセフィロト。上空から撮された映像。拡大していくと、石間と滝野、その傍らにいた挟井が上空に視線を向け、手を振る。

樋村 ただ、シェムハザイもまた、俺の〈天空の目〉を捉えていた。

壬生 どういうこと？

樋村 俺が見ていることが、あいつにばれていた。

但峰 樋村さんの〈天空の目〉を認識できる……。

大念 魔法じゃなくて「女の感」だったりして。おっさんの覗き見。その視線って……。

壬生 うーん。何となく分かっちゃう……か。

秦・樋 そんなもんか？

壬・大 そんなもんよ。

但峰 でも、〈天空の目〉がばれたのは……。

樋村 確かに、初めてのことだ。

秦 さすが、「最強の魔法使い」って呼ばれるだけはある。パピヨンの中のアルゴスだって、速かれ遅かれ気付かれるだろうな。

大念 目だけではなく、耳にもばれちゃうってことか。

秦 おそらく。さてと、今までの掴むことが出来た情報をまとめておこう。

壬生 挟井葉、シェムハザイがここに現れた理由。その目論見は何か？

樋村 メルトダウンしたネフィリムを一気にクリーンアップするためだ。

壬生 クリーンアップ？ どうやって？

樋村 効率的な方法で……だそうだ。

壬生 だから、それをどうやって……。

秦 樋村が知り得たのは、そこまでだ。だが、それにはアルマロスの力が必要であるとのことだ。

樋村 それに重要な情報がもうひとつ。シャムハザイはアルマロスに向かってこう言った……。二人きりではない。私たちには仲間がいる。

大念 仲間？

樋村 グリゴリの眷族……。

但峰 けんぞく？

壬生 眷族って……ハイブリッド達のこと？
樋村 眷族がここに集まってきている。ヤツはそう言った。
壬生 ここに集結って……。
秦 確かめることは出来ないかな。なあ、匡子。お前のイントロスコピーの能力と樋村の〈天空の目〉をあわせる事は出来ないか？
壬生 合わせる？
秦 樋村が〈天空の目〉でスキャンし、その樋村のイメージをお前が読み取る……。
但峰 イントロスコピーのリモートセンシング！
壬生 出来るかも……。〈樋村に〉ねえ、克爾。顔を私の方に向けて〈天空の目〉を開いて。

樋村、壬生に顔を寄せて〈天空の目〉を開く。壬生は樋村の顔を両手でつつみこむようにして、サングラス越しに樋村の目を見つめる。
スクリーンに投影される〈天空の目〉の映像。福島県南部の海岸沿いの映像だ。

壬生 見えるわ。〈天空の目〉が見える。
秦 どうだ。この周辺でハイブリッドが集結している気配は？
壬生 感じない。
秦 樋村。ネフィリム周辺は？

〈天空の目〉が海岸線を北上。ネフィリムが拡大される。

壬生 なにも感じない……。
大念 ハイブリッドが集結してるって言うのは、フカシ？
秦 いや、シェムハザイが隠している可能性がある。
壬生 シェムハザイがもし、アラキバと同じく翼を隠す〈隠匿の秘術〉を弄せるなら……。
秦 匡子のイントロスコピーを欺くことなんか朝飯前ってことだ。

〈天空の目〉が海岸線を南下していく……と、壬生が声を上げる。

壬生 待って、克爾。
樋村 どうした？
壬生 その海岸線。

〈天空の目〉が海岸線を拡大する。
誰かがいる。あっ、棚橋の後頭部だ。かなりやばくなってきている。

壬生 晃よ。
但峰 棚橋さんが？
壬生 海岸に立って、海を見てる。待って、誰かいる。

傍らに誰かが現れる。セーラー服を着た女の姿だ。二人で海を見ている。

壬生 セーラー服？ っていうか、女子高生？
秦 待て。棚橋が女子高生と二人で海を見つめているとでも言うのか？
大念 えっ、おっちゃんが？ 拉致ったのか？
但峰 未成年略取誘拐ですか？ 刑法第 224 条、7 年以下の懲役ですよ。
秦 元警官の棚橋がそれを知らないはずはない。勇気あるなあ、棚橋。
壬生 拉致って決まったわけじゃないでしょ。
大・秦 拉致に決まってるじゃん。あのおっちゃんと女子高生にそれ以外にどんな接点が……。
樋村 俺には棚橋しか見えないが……。
壬生 何言ってるの、晃のすぐ横。
樋村 だから、俺には……。
壬生 見えないって、どうして？ これ、イントロスコピーだけが捉えているイメージ？
但峰 でも、どうして、棚橋さんが女子高生と？
大念 だから、さっきから事件性が高いって指摘してるじゃない！

舞台前方でバタバタやっている間に、奥舞台上に現れる棚橋。
照明が振り替わり、台下の役者は退場する。

棚橋 ……俺の魔法。そのヒントは思い出の中にある 俺の思い出と言え……。

カモメの鳴き声。舞台上に現れるルカ。スクリーンに投影される浜辺の映像。
ルカは胸にグローブを抱えている。

ルカ どうしたの？ 釣り竿も持たずに海を眺めてるなんて。失恋した？
棚橋 失恋？ 誰に。
ルカ 男やもめの晃君には恋人すらいないか。
棚橋 君はどうなんだよ。
ルカ 私もひとりぼっち。恋なんてしようと思ったこともない。
棚橋 大学入ったら、考え方も変わるかも。
ルカ かもね。はい。（と、グローブを手渡す）
棚橋 （グローブを受け取り）どうしたんだ、これ？
ルカ 船を作るために廃品回収してたら、見つけた。
棚橋 本当か？ まさか、高校の野球部からばくって……。
ルカ キャッチボールしよう。球もあるし。（と、グローブをはめ、球を放る）

棚橋がグローブをはめる暇もなく、球が飛んでくる。胸元で両手に持ったグローブでそれを受ける。当然、パシッという小気味よい音が響く。

棚橋 おいおい、急に投げるなよ。（とグローブをはめ、軽く投げ返す）

ルカ （パシッという小気味よい音とともに、グローブで球を受ける）さすが、高校時代野球やってただけあるね。

棚橋 そんな話したっけ？

ルカ 覚えてもいないんだ（と、強めに投げる）

棚橋 （パシッという小気味よい音とともに、グローブで球を受ける）おお、いい球投げるな。（軽く投げ返す）

棚橋 でも、女の子なのにキャッチボール？

ルカ ある意味、それセクハラ発言だよ。

棚橋 そうか？

ルカ 女の子がキャッチボールしちゃいけないのなら、ソフトボールで金メダル取るのもいけないことになっちゃうじゃん。

棚橋 そりゃそうだ。

ルカ ねえ、キャッチボールしていると、言葉のキャッチボールも上手くできる。パパともこうすればよかったのか。

棚橋 上手く言葉のキャッチボールができないってこと、パパとは？

ルカ うん。上手くできてるとは言い難いかな。昔は良く話をしたんだけどね。ママが元気だったころは。

棚橋 パパとはどんな話をしたんだ？

ルカ 魔法の話。ネフィリムが魔法だって。天界から落ちてきた 200 人の墮天使達、グリゴリが天界の秘術であるネフィリムを教えてくれたんだって。

棚橋 君のパパはネフィリムの偉い人だったっけ？ その人が言うと、迫力あるな。

ルカ そう。私はそれを信じた。幼い頃の私は、それを信じたの。パパの言葉を……。

棚橋 なんか、パパに騙されたみたいなの、言い方に聞こえるぞ。パパは君に嘘なんかついちゃいない。

ルカ そうね。ネフィリムは天界の秘術。この世は魔法でできている。

と、最速な剛速球。うわずった球が、棚橋のグローブの遙か上を通過する。

棚橋 こら、どこ投げてるんだ！

棚橋がグローブを投げ捨てて、球を拾いにヤブの中に入り込む。

棚橋 一体何処行っちゃったのかな、球……。まったく、少しは加減してくれよ。

ルカが退場し、一人取り残される棚橋。と、背後から呼びかけられる。橘の声だ。

（橘） 棚橋さん。どうにでもなるんじゃないですか？

棚橋 橘……。そうは言ってもな。

（橘） 特別に便宜を図っているわけではないでしょう。

棚橋　でもなあ。ずっと全面禁煙だったのに、一人の喫煙者のために運動時間内の喫煙を認めるのは……。石間組の組員だよな、あれ。

(橘)　堅く考えないで下さいよ。それにこれ、刑事課からの要請でもあるんです。

棚橋　刑事課からの要請……いや、圧力だ。暴行罪でばくられた石間組の組員の処遇に関してだ。訴えてきたのは反ネフィリム NPO の人間だ。きっとネフィリム対応で組員がやり過ぎた……いや、殺すつもりでしくじったのだろう。やがて、不起訴になることは火を見るより明らかだ。だが、その火消しを行っているのは石間組だけでなく、警察もそれに荷担しているに違いない。

(橘)　今日の午後、面会があります。

棚橋　面会？　石間組って……。橘、急にそんなことを認められるわけが……。おい、橘！

と、現れる石間と滝野。

滝野　おお、青木、お前、元気でやってるか？

石間　(吐き捨てるように) クソ狭いところだな……。

棚橋　すみません。ここは留置場……。

石間　誰だ？

滝野　青木の健康管理の「担当さん」だ。

石間　あああっ、どうもどうも青木がお世話になっております。

滝野　青木、あと2、3日の辛抱だ。処分保留で釈放になる。

石間　(ぶ厚い封筒を棚橋に渡して) 担当さん、これを青木に……。

棚橋　何ですか？

滝野　現生だ。地獄の沙汰も何とやら……。

棚橋　(封筒の中を確かめて) 現金の差入れは、1回の3万円までと決まって……。

石間　硬いこと言うなよ。じゃあ、残りはそっちの懐に入れちゃっていいから。

棚橋　できま……。

滝野　(棚橋の顔に自分の顔を近づけて) なあ、担当さん。悪いことは言わない。長いものには巻かれとけ。なっ？

石間　じゃあな、青木。事務所で。

滝野　じゃましたな。

と、二人退場。棚橋だけが取り残される。

棚橋　(手に封筒を持ったまま) おい、待て。これを持って帰れ。こんなもん受け取れるわけないだろ。クソ！

棚橋が封筒を床にたたきつける。と、駆け込んでくるルカ。

ルカ　ねえ、ボール見つかった？

棚橋　んっ？　(と、頭を強く横に振って妄想を振り払い答える) ああ、見つけたよ。

グローブを手に、球を投げ返す。ルカがパシッと小気味よい音を立ててそれをキャッチする。

ルカ 晃君、今日変だよ。(投げる)

棚橋 いつもこうだけど。(取って、投げ返す)

ルカ まあね。でも、今日は特に変。ねえ、牢屋でなんかあったの？(投げる)

棚橋 (取る) だから牢屋じゃない。留置場だって言っただろ。(投げる)

ルカ 留置場で何かあったでしょ？

棚橋 そんなことはない。たとえあったとしても、部外者に言えると思うか？

ルカ 部外者？ 単なる女子高生だよ。友達すらいらない女子高生に話したところで、誰に漏れるって言うの？

棚橋 「友達すらいらない」なんて言うなよ。

ルカ 留置場で何があったのか話してくれないなら、キャッチボールは終了ね。(と、グローブを外そうとする)

棚橋 (グローブを振って) 分かった。話すよ。曖昧にぼかしてだけど……。

ルカ そう来なくっちゃ！(と、剛速球)

棚橋 (胸のど真ん中でかろうじてキャッチ) ナイスボール。実は……パクられたチンピラが留置場にいてな。それだけならどうってことないんだが……それが質の悪いヤクザ組織のチンピラでな。(投げる)

ルカ 質の悪い？ あっ、石間組でしょ、それ。(投げる)

棚橋 なんで知ってる？

ルカ 「ザ・ヒットマン」。見てないの？ TBF の超人気のテレビドラマだよ。それに出て来るヤクザが石間組じゃん。

棚橋 (ふと思い出し) ああ、そういえばそうだったな。(投げ返した後、笑って独りごちる) 偶然にも一緒か……。

ルカ 悪いヤクザは撃っちゃえば？ 晃君さ。警官なんだから、拳銃持ってるんでしょ？ 撃ち殺しちゃえばいいじゃん。(投げる)

棚橋 あのテレビドラマみたいにか？

ルカ ザ・ヒットマン。かつてはヤクザお抱えの殺し屋に過ぎなかった男。だが、今は悪に対してその銃口を向けるのだ。裏切り者として組織に追われながらも……。 (ちょっと、渋いキャラで) 「撃ちたくて撃つわけじゃない。誰かの想いが俺に引き金を引かせるのさ……」

棚橋 おいおい。現実にはドラマじゃない。どう言い訳したところで、殺人は殺人だ。それ現実にやったら……。 (投げる)

ルカ いいじゃん。カッコいいんだから。格好良ければすべて良し。(投げる)

棚橋 単純だな。つーか、君、あの役者が好きなのか？(投げる)

ルカ 大好きだよ。主役のヒットマン！(投げる)

棚橋 ただのオヤジだぜ。

ルカ 渋いオヤジっていいじゃん。

棚橋 ああの役者、実は髪が薄くって、撮影の時には常にヅラだって話だぜ。ヅラじゃなくって、粉振りかけるタイプだったけかな……。

ルカ いいじゃん。髪薄くたって。そんなの関係ないよ。だってオヤジなんだもん。

棚橋 つーか、君、オヤジ好き？（投げる）

ルカ （キャッチして）かも。（と、言って微笑む）ねえ、現実にはドラマと違うのかな？

棚橋 当たり前だ。ドラマの中では撃ち殺したところでその役者は死んだりしない。でも、現実ならそうはいかないだろう？

ルカ 魔法で動くこの世界でも……。

棚橋 銃弾を撃たれたら人は死ぬし、天使ですらアマダスの弾丸で昇天する。

ルカ そっか……。

ルカがボールをふわりと放る。

ルカ こんな物語を聞いたことがある？

棚橋 どんな物語だ？

ルカ それは悲しい物語。天使が天使を殺すとても悲しい物語……。

ルカを見つめる棚橋。悲しげな表情のルカの姿が揺らぎ、消え入りそうになる。ルカを追って、棚橋が半歩前に踏み出すと、背後からかけられる声。驚いて、我に返る、棚橋。秦、樋村、壬生に加え、大念と但峰もいる。明かりが振り替わる。

樋村 こんなところで黄昏れてたのか？

棚橋 見つかったか。

壬生 何をしていたの。

棚橋 （手のグローブを見て）キャッチボール、かな？

大念 一人で？

棚橋 まあね。そして、過去を思い出していた。

但峰 過去？

棚橋 嘉剛に言われたんだ。俺の魔法、それを知る鍵は思い出の中にあるって。

壬生 で、何か思い出した？

棚橋 思い出せたのは、俺が留置場管理官だったときの記憶。そして……。

秦 女子高生か？

棚橋 どうして、それを？

秦 匡子がそれを見た。きっとイントロスコピーでお前の心を読んだ。

壬生 その娘はあの洪水で……。

棚橋 いや、彼女は生き延びた。

樋村 今でもこの街で生きている。

棚橋 生きてはいる。彼女は病院にいるんだ。

大念 酷い怪我をした？

棚橋 いや、そうじゃない……。

壬生 ねえ、どこの病院？
棚橋 （瞼を強く綴じ、思い出そうとする）常磐（ときわ）中央病院……だ。
壬生 常磐中央……。
但峰 ちょっと待って、その病院はあの大洪水で壊滅したはず。未だ廃墟のまま……。
棚橋 （目を開き）そんなはずはない。俺は……。 （首を横に振って）いや……。

台上のルカに、瞬だけ明かりがさす。ルカが口を開く。泣き出しそうな顔で……。

ルカ どうして私を助けたの？

スパーク音。目潰し。ルカが煙のように消失する。硬く瞳を綴じている棚橋。

秦 どうした？
棚橋 記憶がなんだか、ごちゃごちゃになって……。

樋村、〈天空の目〉を開く。スクリーンに投影されるマップ。
常磐中央病院にズーム。だが、霞がかかったように詳細が見えないのだ。

樋村 常磐中央病院が……。
壬生 どうしたの？
樋村 霞がかかったように、見通すことができない……。
大念 それって？
樋村 タリスマンによる妨害だ。アルマロスがいる。
秦 シェムハザイは？
樋村 分からない。近くにいるのだとしても……タリスマンによって……。
壬生 私にも見せて。（と、樋村の目をサングラス越しにのぞき込む）
秦 イントロスコピーは反応するか？
壬生 近くにもう一人いる。殺戮天使。嘉剛ね……。
但峰 廃墟となった病院に……。アルマロスと嘉剛？
棚橋 なあ、そこは本当に廃墟なのか？ 俺はその病院に行ったことがある……。
樋村 奴ら（〈天空の目〉を閉じ）、何を始める気だ？
秦 行ってみりゃ分かる。楓ちゃん。車を回せ。

こっくりと頷く、大念。
皆、脱兎の如く走り出し、退場。

6. プルテウスの秘術が楽しいのは、お前だけじゃね？

台上に現れる石間と滝野。他方に挟井。

滝野 アルマは、どっか出掛けちゃったようです。

石間 最近、すぐいなくなるようになって……。滝野、お前からもきつく言っておけ。

挟井 私の戦略に動揺しているんでしょう。でも、すぐに納得するはずよ。

滝野 なあ、出来れば、その戦略の一部分でも教えてくれると有り難いんだけどなあ……。

挟井 そうね。あなた方もお仲間であることには間違いないからね。ねえ、全国のネフィリムの再稼働は思うほど進んでいないのはどうして？

滝野 鹿児島島の川内ネフィリム、福井の高浜……。

挟井 高浜は現在停止中でしょう。

石間 でも、愛媛の伊方が明日……。

挟井 確かにね。でも、その再稼働は遅れに遅れた。ねえ、その足かせになっているのは？

石間 ……。

挟井 ここよ。ここがその足かせ。

石間 やっぱり。

挟井 だから、ここをどうにかするしかない。で、デブリのクリーンアップってわけ。

滝野 デブリ？ えええ、汚染水じゃなくて、デブリを？

石間 魔法粒子がギンギンだぞ！

挟井 アルマがいるでしょ。すべての魔法を無力化できる……。アルマの力で魔法粒子を抑え、デブリを集める……。

滝野 そんなこと出来るか？

石間 なんぼなんでも、作業員達がそれをするとは思えないが……。

挟井 作業員達がグリゴリの眷族だとしたら？ 今は気付いてはいないけど、私が合図を送れば、彼らは動くの。2000人の眷族達……。

石間 に、2000人!?

滝野 2000人のお仲間の献身的な努力でデブリを集めるのはいいとしても、だ。集めたそれをどうするつもりだ？

挟井 (指で天を示し) 空高く、それを運ぶ。

滝野 空高くって、宇宙にでも捨てに行く気か？

挟井 (笑って) 天界へ。これは天界へのプレゼントなの。

石間 天界へのダーティ・ボム？ って、正気の沙汰か、それ？

と、挟井が手を石間に向けて突き出す。指先から一瞬のうちに紡ぎ出される赤い糸の束がうねうねとうねりながら、石間の首に絡みつく。

滝野 おやじ！

挟井 正気ですが、何か？

石間 （苦しそうに）すみません、すみません。つい口が滑っちゃったみたいです。謝りますから、「首ちょんば」だけのご勘弁を……。

挟井が手を収めると、赤い糸がするすると巻き取られたように消えていく。

石間 は一つ、助かった。

滝野 俺たちには使わないって言ったじゃん。それ仲間を脅すために使うの止めようよ。

挟井 そうね。これは天使も殺せる禁断の魔術。あなた方に使うのは、魔法に失礼か？

滝野 魔法じゃなくて、俺たちに失礼だぞ。ということをお願い分けじゃなくて、その魔術、殺戮天使も殺せるのか？

石間 天使を殺せるのは、アマダスの弾丸だけだと思っていたが……。

挟井 この〈クロコスの魔術〉もまた、そんな呪われた魔法のひとつ。

滝野 だが、奴らにはアマダスの弾丸がある。それに小汚い手も使うし……。

挟井 （指を横に振り）アマダスの弾丸はもう脅威ではないわ。あの殺戮天使はもうアマダスの弾丸を作ることが出来なくなったの。赤い弾が出ちゃったみたい。

石間 赤い玉？ おっさんだったら誰でも秘密にしたい極秘情報をどうして知ってる？

挟井 盗聴装置。

滝野 仕掛けたのか？

挟井 仕掛けたのはあちら。あなた方、盗聴装置を仕掛けられていたのはご存じ？

石間 盗聴器！ どこに、どこに……。 （と、バタバタする）

挟井 そこ。その犬。

石間 パピヨンに！

挟井 お腹の中に小さな石の欠片が入っている。アルゴスの欠片よ。ゼウスの妻ヘラによってスパイを命じられた百の目を持つアルゴス。あなた方の行動は逐一あちらにばれていた。私はそれを逆に使った。

石間 マジで！ なんか、情報が筒抜けだと思ってはいたが……。なあ、挟井さん、取ってくれ。そのアルなんとかの欠片を、パピヨンちゃんから……。

挟井 取り去るのは簡単。でも、盗聴器はあるに越したことはない。それで、アマダスの弾丸が弾切れになったのが分かったのだし。一発だけは持ってるみたいだけど。

石間 たった一発？ でも、それがヒットすれば……。

挟井 外れたら後がない。そういうことよ。

滝野 それにしても凄いなあ。いろんな魔法が使えるんだ。魔法のデパートってヤツか。

挟井 私はすべての魔法使いの起源なの。つまり、ほとんどすべての魔法を操ることが出来る。タリスマン以外はね。

石間 つまり、お前とアルマが組んだら、最強ってこと？ すげー（と、素直に感嘆する）

滝野 じゃあ、なんか、他の面白そうなヤツはないのか？

挟井 うーん。そうだ。右手が突如、ムカデになっちゃうって魔法は？

石・滝 （残念そうに）それ、見たことある。

滝野 つーか、やったことある。なあ、もう少し、役立ちそうなヤツはないの？

挟井 そうね。じゃあ、とっておきの、プルテウスの魔術はどう？ 変化（へんげ）の魔術

のひとつなんだけど、どちらかというと肉体交換といったところね。

と、挟井が指を鳴らす。挟井と石間が意識を失ったように一瞬がくりと首を前に折るが、すぐに顔を上げて……。

挟井 おおお！　なんだこれは、儂が……儂が……。

滝野 どうしたんだ、挟井さん？

石間 （腕組みをして、微笑む）私はこっち。

滝野 （石間を見て）はあ？　オヤジ、冗談は……。

挟井 パピヨンちゃん。儂はどうなっちゃんだ？　パピヨンちゃん……。

滝野 どういうことだ、これ？　挟井さん。

石間 だから、私はこっち。これがプルテウスの魔術。まあ、中身を交換したってことになるか。（と、指を鳴らす）うーわー、儂は……。って、元に戻ってるし。はあ、びっくりした。ああ、パピヨンちゃん、一時はどうなることかと……。

滝野 オヤジ！　大丈夫すか？

挟井 どう、滝野さん。あなたも、体験してみる？

滝野 いや、俺は……。

挟井 （指を鳴らし、がくりと頭を下げるが、すぐに向き直り）っていうか、やりやがったなあ。こりゃなんじゃあ！　こんなの嫌だ。なんか変だろ！

滝野 （腕組みをして、微笑む）ねえ、少しは慣れて欲しいなあ。いちいち動揺していたら、入れ替わった意味がないでしょう？

石間 滝野、お前も……。

滝野 （ウザそうに）だから、滝野はそっち。こっちは挟井。

挟井 うわあ、なんか変な感じで、慣れるとか、慣れないとか言うレベルじゃない……。

滝野 しょうがないなあ。と、指を鳴らす）うーわー。って、元に戻ってるし。はあ、びっくりした。こら、挟井さん。急にやるのは無しにしようよ。

と、挟井が指をならそうとするのを、二人が止めに入る。

石間 タイム。急にやるのなし。

滝野 心に準備に時間が必要だろ……。

挟井 練習あるのみ。習うより慣れろってこと。楽しいでしょ、このプルテウスの秘術？　だったら、もっと楽しんで……。

滝野 つーか、なんか……。

石・滝 楽しいの、挟井さんだけじゃね？

石間 こっちはイマイチ楽しくないんだよね、役者的に……。

挟井 そう？

石・滝 うん。

力強く頷く、石間と滝野。唐突に暗転。

7. 廃墟に大挙して押しかける

舞台奥台上にアルマロス。その傍らに嘉剛。
スクリーンに投影される瓦礫だらけの廃墟。

嘉剛　やはりここにきたか？
アルマ　関係ないでしょ。あんたに呼ばれてここにきたわけじゃない。
嘉剛　あの大洪水によって完膚無きまで破壊された病院。だが……。ここはお前にとって、いや、この魔法世界にとって、重要な場所なのだ。「魔法世界のへそ」だ。
アルマ　なんだよ、「へそ」って？　変な言い方……。
嘉剛　この前、ルカの話をしただろう。ルカがここにいる。
アルマ　こんな廃墟に？　じゃあ、会わせてよ。
嘉剛　私にはそれは出来ない。だが、おまえなら出来る。タリスマンの力で……。
アルマ　チャーム！
嘉剛　それで魔法世界を無力化し、穴を穿てばいいだけだ。ルカはその向こう側にいる。
アルマ　変な音が聞こえるようになったの。耳元で……。いや、遠くでかな。
嘉剛　おまえはその理由を知るために、ここに……。
アルマ　ねえ、すべてを知るものであるあなたはどのようにしてここにいるわけ？
嘉剛　お前が穿つ穴の先に、私の見たいものがある。
アルマ　その先はあなたにもよく見えないんだ。だから、私に粘着しているわけか……。
嘉剛　粘着か……。まさにそうだな。理由を知るためには魔法を使うしかない。早く……。
アルマ　調子よすぎじゃない？　私にそれをさせて、おこぼれに預かろうっていうその態度。あなたがいなくなったら、チャームを使うことにする。
嘉剛　意地悪だな。
アルマ　お行儀悪いオヤジに、優しくしてやる必要なんかないじゃない。
嘉剛　なあ、死に行くものに、冥土のみやげとは考えられないか？
アルマ　今度は泣き落とし？　っていうか、いつ死ぬの？
嘉剛　もうすぐだ。
アルマ　もうすぐって、いつ？　1週間後、明後日、それとも10秒後。
嘉剛　明日だ……。
アルマ　はっ？　すぐじゃん。どうして死ぬの？

嘉剛はただ首を横に振るだけだ。ため息をつき、アルマがタリスマンを起動する。パルス音がゆっくりと高鳴っていくと、舞台前方に明かりが振り替わる。駆け込んでくる但峰、大念、そして殺戮天使の4人。アルマと嘉剛は退場。

但峰　この建物です。やはり壊滅的な被害を受けていますね。
壬生　この廃墟が常磐中央病院？
棚橋　嘘だろ。なあ……。俺の記憶じゃ、ここに……。ここで白いベッドに横たわり……。

なあ、俺のこの記憶は何なんだ？（うずくまってしまう）

秦（その肩に手を置き）棚橋。大丈夫か？

棚橋大丈夫だ。記憶が上手く噛み合っていない。頭の中で軋んでる感じだ。

壬生ねえ、その娘はどうして病院に？ あの大洪水は生き延びたんでしょ？

棚橋あの大洪水の後だ。たくさんの悲劇が彼女を襲った。それで……。どうして、記憶が混乱しているのかは分からない。だが、この先に真実があるはずだ。

樋村（〈天空の目〉を開き）アルマロスはこの建物のど真ん中、多分三階あたりにいる。

壬生（樋村の目をのぞき込み、イントロスコピーを動かす）シェムハザイはいないわ。

樋村アルマロスと嘉剛だけ。

壬生つまり、攻撃ゴマは一切なし。突入可能ね。

大念アルマロスに見つかったら？

棚橋挨拶すればいいだけだ。

秦匡子は樋村とともに西側から建物の中に入れ、俺と棚橋は東側から……。

大念私たちは？

但峰ここまで来て、「ここで待て」はないよね。

大念なんだか分からないけど、この先に行かなきゃならない気がするの。

壬生どうしたの？

大念棚橋のおっちゃんと一緒に。なんだか記憶が噛み合っていないって感じ。

但峰偶然にも、僕も楓ちゃんと同じ気持ちなんだ。

壬生連れて行っていい？

秦まあ、シェムハザイがいらないのなら、問題はないだろう。

大念そう来なくっちゃ。行くよ大介君。

我先にと駆け出して退場する大念と但峰。

壬生ちょっと待ちなさい。全く……。 （と、後を追う）

秦樋村、彼らを！

樋村ああ。（追い掛けようと、動き出す）

棚橋さあ、俺たちも行こうぜ。

棚橋と秦が逆サイドに駆け出すのを、樋村が声を上げて制する。

樋村待て！

棚橋どうしたんだ？

樋村何かが急速に近づいて来る。それも、空からだ。

ゴウという風を切る轟音。円を描くように目潰しが一閃する。

大仰な羽ばたき音とともに、台上中央に着地する挟井。

大きな羽が折りたたまれて消える。挟井が立ち上がって、笑顔で挨拶する。

挟井 初めまして。殺戮天使さん達。
秦 シェムハザイか？
樋村 どうしてここが？
挟井 あらあら、〈天空の目〉を持つのはあなただけだと思っているわけ。私がすべての魔法使いの起源であるのはご存じでしょ？
棚橋 なんでこんな時に……。
挟井 （馬鹿にするように）こんな時だから、来たのかな？ 殺戮天使達と話をする必要があると思ったの。ねえ、質問していい？
三人 ……。
挟井 沈黙は了解の意味？ ねえ、グリゴリを葬り去ろうと、天界は殺戮天使を大地へと解き放った。私たちは殺戮されるがままになっていた。それは何故？
三人 ……。
挟井 この沈黙は回答保留の意味？ 私たちは誰も反撃しなかった。いえ、確かに反撃した者もいたわね。でも、それは正当防衛としての反撃だった。グリゴリは誰一人として、本気で殺戮天使を返り討ちにしようとしたものはいないの。それは何故？
三人 ……。
挟井 この沈黙は回答不能の意味？ 答えは極めて単純よ。天使は天使を殺さない。それが天使の定め。でも、殺戮天使はその則（のり）を越えた。
秦 グリゴリを殺すこと。それが俺たちの使命だ。
挟井 その通りね。200 人いたグリゴリ達はあなた方に、そして天界の引き起こしたあの洪水によって無残にも殺戮された。あなた方の目的……いえ、天界の目的はまさに達成されようとしている。でも、私は足掻くわ。戦うことを決めたの。
樋村 俺たちを殺すということか？
挟井 正当防衛で、あなた方を殺す。そして反逆の裁定を行った天界にも牙を剥くの。
秦 待て。天界に抗う？ たった二人のグリゴリで？
挟井 （ゆっくりと首を横に振って、微笑む）グリゴリ達が人類と交わって、産み落としたハイブリッドがこの地上に何人いるかご存じ？ 私たちはただ殺戮されて数を減らしていくだけの存在ではないの。仲間の数を増やすことができる……。
樋村 ハイブリッド。それが、グリゴリの眷属か……。
挟井 単なる眷属ではないの。私たちはハイブリッドとさらに交わることによって、その血を濃くしてきた。
秦 連続戻し交配？
樋村 連続……なんだって？
秦 続戻し交配。ハーフのハイブリッドとアーキタイプの交わりによって血の濃さは 75% に。さらにそれとアーキタイプが交わることにより 88%まで上昇する。
挟井 （馬鹿にするように顔を歪めて）そんな農作物の品種改良みたいな言い方は素敵じゃないわね。でも、私たちはそうして血の濃いハイブリッドを産み出していった。
樋村 俺が愛した純奈はハイブリッドだった。グリゴリとの交わりによって生まれた純鈴はさらに血の濃さを増していた。それは偶然ではなく、意図的に行われていた？
挟井 （笑顔で頷く）惨殺されるばかりが私たちの運命ではないと言ったでしょ。私たちグ

リゴリが天界を捨てたのは、人間の自由さに憧れたから。自由でいたかっただけ。それを裏切りと断罪し殲滅しようとする天界に、私たちは反撃を開始するの。

棚橋 どうやって？

挟井 地上には私たちが産み出したグリゴリの仲間が2000人いる。それがこの街に集結しているの。その者達は自らがグリゴリの眷族であることに未だ気付いてはいない。だけど、私が一声叫べば、秘められたグリゴリの遺伝子が動き出す……。そして、翼を羽ばたいて、天界に向け進軍を開始する。

秦 天界に刃向かってでも無駄だ。グリゴリの統率者、アザゼルだって一瞬のうちに握りつぶされた。無慈悲な天界は、そうやってお前達のすべてを即座に殲滅する。

挟井 だから、あなた方、殺戮天使にむざむざ殺されろとでも？

秦 俺たちなら、グリゴリを天界に戻すことができる。煉獄に繋ぎ止められ、贖罪と浄化を経て、やがて天界へと戻る……。

挟井 私たちは天界を捨てたの。戻ることは決してない。ねえ、こう考えたことはないの？ 天界は信じるに足るものなのか。あなた方の翼をもぎ取って、地上に墮とただけでなく、何の警告も与えることなく大洪水で殺そうとする。それが天界のやり方よ。殺戮天使はどうして天界を信じることができるの？

三人 ……。

挟井 ねえ、この沈黙は逡巡の意味？ 私たちとともに天界に抗いたいとは思わない？

三人 ……。

挟井 答えて。本当に天界は信じるに足るの？

秦 俺は信じている。天界を信じない天使はいない。

挟井 いるわよ。ここに。私たちグリゴリは天界を信じることは出来ないの。見解の相違。永遠の平行線。つまり、私たちは殺し合うしかないということね？

挟井がその両手を引き絞るように動かすと、絹糸がすれるような音。あふれ出す大量の光。おっさん三人が悲鳴を上げて吹っ飛ぶ（退場）。挟井もその反動で退場する。駆け込んでくる大念と但峰。それを追って駆け込んでくる壬生。

壬生 待って、大介君。楓ちゃん。

大念 ねえ。壬生先生。私、どうしてか分からないけど、ここにいた気がする。

但峰 何でだろう……。こんな廃墟なのに、病院だった頃のイメージが重なって見える。

大念と但峰。幻影を追うかのように、退場する。

壬生 待って。克爾がまだ来てないの。二人とも……。

響き始めるパルス音。廃墟の壁がぐらぐらと揺れ、亀裂が入る。

壬生 ねえ、この音は何？

台上にルカが立っているのが分かる。眠るように瞳を閉じている。

壬生 あなたは誰？

舞台両袖に現れるアルマロスと嘉剛。

嘉剛 アルマロス。ここは廃墟ではない。穿った穴の先に見えるのは、病院だ。洪水を乗り越えたのだ。その少女は眠り続けている。ただ、眠り続けている。

台上のルカが瞳を閉じたまま呟くように言葉を発する。

ルカ パパ。この世界は魔法で動いてる。あの発電システムだって、魔法なの。

嘉剛 ネフィリム。

ルカ そう。ネフィリム。グリゴリ達が人類に与えた天界の秘術なの……。

壬生 ねえ、これは何なの？

スパーク音。ルカとアルマロスの身体が、感電でもしたように、一瞬硬直する。
と、白衣を羽織った大念、それに次いで白衣姿の但峰が舞台の両翼に現れる。

大念 （ファイルを手にして）但峰先生。心拍、呼吸に明らかな変化が認められます。さっき確かにまつげが動きました。電気刺激に対する生理的な感応ではなく、明らかに感情を帯びた動作のように、私には感じられましたが……。

壬生 ねえ、楓ちゃん。どうしたの、白衣なんか着て……。

壬生の声は大念に届かない。

但峰 「脊髄後索電気刺激療法」が成果を上げているということかな。ただ、意識レベルを示す GCS__グラスゴー・コーマ・スケールは3。依然、深昏睡だ。

壬生 大介君。それ何のコスプレ？

その声は但峰に届かない。

大念 もとより MRI による検査では脳の損傷は一切認められてはいない。仙骨への電気刺激は絶対に功を奏するはずです。

但峰 壬生先生が研究を推し進めた「脊髄後索電気刺激療法」がやっと日の目を見ることになりそうということだな。

壬生 脊髄後索電気刺激療法？ 私が研究した？ 待って、私は先生と呼ばれるけどメディカル・ドクターではないでしょ？ 私は弁護士事務所の……。

但峰 壬生先生。僕は実証して見せますよ。5 年間眠り続けていた女性を目覚めさせます。先生が開発された方法を使って……。 (笑顔で退場する)

大念 もう5年経つんですね。先生がああ洪水で……。 (眉を顰めて退場する)

スパーク音。ルカとアルマロスの身体が再び、感電でもしたように硬直する。

嘉剛 仙骨への電位刺激。それが背骨を駆け上がり、ルカの脳髄まで奮わせているのだろう？
なあ、ルカ。それでも、お前は目覚めようとししないのか……。

ルカ (瞼をゆっくり開き) 決して壊れない魔法世界。それだけが……私の世界。

ルカがにっこりと微笑みながら退場する。

アルマロスがタリスマンの魔術を切る。

アルマ ねえ、満足した？ あなたの見たいものは見えた？

嘉剛 ……。

アルマ 何んか言ってよ。ねえってば……。あれが私なの……。ねえ。

嘉剛 ……。

アルマ 何もいわないなんて狡すぎる。だったら、あなたが死ぬ明日、この世界では一体何が起きるの……。

嘉剛 不毛な戦いが起きる。そして、永遠の闇が訪れる。私はそれを見たいとは思わない。

嘉剛が退場。アルマロスは追い掛けようとするが立ち止まり、翼を大きく広げる。

アルマ 明日？ それ。急すぎるじゃん。

バサリと翼を羽ばたくが、飛び立たない。天井から壬生の足下に天使の羽が一枚ふわふわと落ちてくる。それを拾い上げる壬生。

壬生 天使の羽？ アルマロスの羽？ ねえ、私は……。私は……。

羽を手にした壬生。唐突に闇となる。

と、おっちゃん達の悲鳴が暗闇を切り裂く。絹糸がすれる音。

明転すると、台下で首に赤い糸を巻き付けてそれをかきむしって苦しんでいるおっさん三人。台上で赤い手綱を捌いている挟井。

棚橋 こらあ、俺はこんなところで死ぬわけにはいかないんだ。何のためにここにきたのか
分かんなくなっちゃうだろ！

挟井 うるさいなあ。まずは、あなたからから行っちゃおうかな……。

秦 樋村、アマダスの弾丸を撃て！

樋村 ダメだ。この状況だとあたるかどうか……。

挟井 最後の一発なんですよ。外れたら後はないわよ。

秦 つうか、首取れちゃったら、撃つに撃てなくなっちゃうだろ！

挟井 お別れね……。

さらに挟井がその両手を引き絞るように動かす。絹糸がすれるような音。
全員に絡みついている赤い糸が一段と引き絞られたようだ。

棚橋 （苦しそうに）こら……助けて……

秦 助けたいのはやまやまだが、こっちもこっちで身動き取れないんだ。

棚橋 首取れっちゃうだろっ……。このままだとさあ……

樋村 すまない、棚橋。どうにもならん。

秦 樋村。棚橋の首が飛ぶ瞬間、シエムハザイに隙が生じる。生じるはずだ。できるなら
生じてほしい。生じてくれないと困る。その時が反撃のチャンスだ！

棚橋 やるなあ、秦。肉を切らせて……いや、首を切らせて骨を断つっていう戦法か！ ……
…っていうか、それじゃあ、俺死んじゃうだろ、ばかちゃんがぁ！

挟井 小芝居は済んだか？ では、棚橋さんとやら、さようなら……

樋村 （銃口を挟井に向け）棚橋を殺したら、お前も同時に死ぬぞ！

挟井 外れたらどうする。

樋村 俺の首が飛んだら、撃つチャンスすら無くなる。

秦 そうだ。それだ。良く言った樋村。

挟井 しょうがないね……。

と、その瞬間、挟井と樋村の首がガクリと前に折れて、一瞬のうちに顔が上がる。
樋村が、挟井に向けていた銃口を秦に向ける。

秦 （大層驚いて）こら、俺じゃない。挟井を撃つんだ！ 樋村、錯乱したか！

挟井 秦、違う。俺はこっちだ！ そいつは挟井だ！

棚橋 はぁ？ どういうこと？

秦 まさか、プルテウスの秘術。自分自身を入れ替えたな！

樋村 その通り。最後の一発で、自分自身が撃たれるってどんな感じかなあ……。

秦 樋村、クロコスを力強く引け！

挟井 どっせい！

樋村 ゴホゴホ（と苦しがる）くそっ！

と、再び挟井と樋村の首がガクリと前に折れて、一瞬のうちに顔が上がる。

樋村 ああっ、元に戻った！

挟井 （咳き込んで）首が切れるかと思った……。

秦 （挟井に）お前も少し、考えて技を繰り出せ。

挟井 めんどくさいね。もう三人いっぺんに片付けるから。（と、クロコスに力を込める）

棚橋 首取れるう！

秦 撃て、樋村

樋村 無理、涙目で照準が……。
挟井 つべこべ言わずに死ね……んっ？（と、怪訝な表情を浮かべる）どうして……何故？

挟井がみんなの首を切り落とそうと力を込めるが、何かが障害となってそれが阻まれているようだ。と、背後に現れる、アルマロス。手の甲に彫られたタリスマンに意識を集中している。

挟井 アルマロス。どうして邪魔をする？ タリスマンの秘術を解け。
アルマ いやよ。だって、ここで殺戮天使を殺してしまったら、面白くないじゃない。
挟井 どうして……。
アルマ 明日だって。
挟井 明日？ あの男がそう言ったの？ オムニコグニションにはそう見えたの？
アルマ あいつが言ってた。「明日死にます」って……。
挟井 へえ、明日……か。

クロコス（運命の糸）が巻き取られたように消失する。
おっさん三人、倒れ込んで、ゼーゼー肩で息する。

アルマ 私たちは、私たちの計画を進めることが先決。でしょ？
挟井 時間がないわね。

台上の挟井とアルマが、両翼に開くように退場する。

棚橋 すんでの所で命拾いした……。
樋村 でも、何故、アルマが俺たちを救う。
秦 なあ、明日……って。明日って何だ？ 明日……。伊方のネフィリムの再起動？ おい、伊方の再起動に合わせて……。
樋村 天界が動く？
秦 中央構造線を叩く気か？
棚橋 なあ、秦。匡子達は？ まさか、アルマロスに？
秦 （首を横に振り）そんなことはない。アルマロスは攻撃の魔法を持っていない。
棚橋 とにかく病院の中へ！

おっさん三人、ほうほうの体で、舞台奥に駆け込んでいく。舞台はゆっくりと暗転。
【このシーンは、赤い糸の束がリアルにおっさん三人の首に巻き付いている絵面が素敵だと思う。気色悪い糸の塊がモーターの回転でうねうね動く感じ？ 当然、それは挟井の腕にもつながっており、秘術の終了の際には、リールで自動的に巻き取られる仕組みになっているのだ。なお、赤い糸は蛍光剤を含んだものが多い。深青色のフィルターの照明の中では輝いて見えるからだ。きつときれいだぞ】

8. 魔法世界の外にも世界がある

舞台中央に倒れている壬生。駆け込んでくる大念と但峰。

但峰 壬生先生！
大念 先生。大丈夫？

大念が壬生の肩に手を置こうとするのを、身をよじって避ける。
羽根を握りしめ、怯えたような表情の壬生。

大念 どうしたんですか？
壬生 あなた達は？
但峰 壬生先生。おかしい話なんですが……。僕らはここがかつて病院であったこととおぼろげに憶えているんです。ここは神経科病棟の手術室。MRI と CT スキャンの検査室が確か廊下の向こうに……。
大念 来たことがありましたっけ、ここに？
但峰 たしか、医療過誤……いや、不正会計の弁護だったかな……。なんでだろ、そこがちっとも思い出せない。
大念 （壬生の手の中の羽根に気づき）壬生先生。それは？
壬生 羽根……。アルマロスの羽根……。

大念がその羽根に触れた途端、スパーク音。と、スクリーンにノイズが走り……。映像。白衣姿の壬生が椅子に座っている。
「常磐中央病院 神経科医長 壬生匡子」のテロップ。
インタビュアーの声。「脊髄後索電気刺激療法によって、植物状態の患者に劇的な改善が認められるわけですね」
映像の中の壬生が答える。「ええ。仙骨、腰の骨に固定した電極から微弱な電気パルス脊髄後索に与えることにより、脳幹や大脳を刺激することができます。未だ研究段階ですが、この療法により、昏睡状態の患者を……」
ノイズ。映像が消える。呆然した表情の三人。

大念 アルマロスの羽に触った途端、何かが、頭の中に……。
但峰 僕にも見えた。これは何……。
壬生 ねえ、この記憶は一体……。

台上に人影。嘉剛である。

嘉剛 ……外の世界。
大念 誰？

壬生 嘉剛？ いたの？
嘉剛 アルマロスがこの世界に穴を穿った。外の世界につながる穴……。
壬生 穴を穿つ？ どういうこと？
嘉剛 アルマロスのタリスマンの能力が、すべての魔法を無力化する力が、この魔法世界まで無力化し始めている。

と、秦の声。舞台両翼に現れる秦、樋村、そして棚橋。

秦 嘉剛、この魔法世界は何だ？
嘉剛 アンブレイカブル。決して壊れることのない世界。
秦 それが、どうしてタリスマンの力で無力化される？
嘉剛 この世界そのものが魔法で出来ているからだ。
秦 では、外の世界とはなんだ？
嘉剛 それは、現実世界……。
壬生 現実？
嘉剛 （壬生に）そうだ。感じただろう、それを……。
壬生 じゃあ、私が見たのは……。

パニックに襲われそうになる壬生に樋村が駆け寄る。

樋村 匡子。お前、一体何を見たんだ……。
嘉剛 この場所にはほころびができてはじめています。タリスマンの力によって、だ。だから、樋村。お前も感じる事ができる。壬生の手にあるアルマロスの羽根に触れてみたらどうだ。
樋村 これに？

樋村が羽根に手をのばす。壬生が首を横に振るが、樋村はそれに触れる。
その途端、響き渡るスパーク音。と、スクリーンにノイズが走る。
ニュース映像。ヘルメットを被ったアナウンサーが甲高い声で原稿を読み上げる。
「ただいま、速報が入りました。俳優の樋村克爾さんが、ロケ地である郡山土屋化学での撮影中に、大地震によって倒壊した煙突の下敷きになり、心肺停止の状態で郡山の病院に緊急搬送されたとのことです。樋村さんはTBFの人気番組『ザ・ヒットマン』で主役の殺し屋を演じ、そのクールな演技で好評を博していました……」
樋村の手から羽根が落ちる。ノイズ。映像が消える。

嘉剛 見たか……。

秦が樋村に駆け寄る。

秦 樋村大丈夫か？ 一体お前何を見たんだ？ これで……。

と、秦が羽根を拾い上げる。響き渡るスパーク音。スクリーンに一瞬ノイズが走り、元に戻る。呆然とする秦。

棚橋 おい樋村、秦。一体お前ら何を見たって言うんだ！
嘉剛 外の世界……。
棚橋 じゃあ、ここは？
嘉剛 だから魔法世界だと言っただろう。
棚橋 天界がここを作ったとでも言うのか？
嘉剛 この魔法世界を夢想し、作り上げたのは……。 (言葉を切って、微笑む)
棚橋 どうした？ 答えろ！
嘉剛 それはお前自身が気付くべきことだ。
棚橋 ……。
秦 嘉剛、教えてくれないか？ この魔法世界はあと一日で終わるのか？
嘉剛 ……。
秦 答えろ。明日、愛媛県の伊方が再稼働する。そのタイミングに合わせ天界は鉄槌を？
嘉剛 そうなるだろう。
秦 断層の真上にある伊方ネフィリムを叩く？ そして……。
嘉剛 どうして伊方なのだ。
秦 どういうことだ？
嘉剛 中央構造線の西の端、日本列島の背骨の腰にあたる熊本で起きた地震は、確かに天界からの警告だ……。

台上に現れるルカ。

ルカ 私の腰、仙骨に差し込まれた電極が微弱なパルスが発生する。その刺激は脊椎すべてを震わせる……。
嘉剛 だが、それに近い愛媛県の伊方に次の地震が起きるとするのは早計だ。中央構造線は日本列島を貫いている。
ルカ パルスが背骨を登ってくる。頭の上の方まで……。
秦 まさか、今度は東の端で？
嘉剛 生き残ったグリゴリがいる場所はどこだ？
秦 中央構造線の東の端……。そうか、棚倉構造線！
棚橋 なんだ棚倉構造線って？
秦 福島県棚倉町から茨城県常陸太田市にかけてのびる 60km を超える大規模な横ずれ断層だ。ネフィリムから直線距離で 40km も離れていない……。
棚橋 伊方ではなく……ここを叩く？
嘉剛 最後のグリゴリはここにいる。殲滅せんと目論むならば、天界はここを叩く。
秦 それが明日……。
嘉剛 それは起きる。明日、この魔法世界は壊滅的な打撃を受ける。最も悲惨なエンディン

グだ。私はそれを見たくはない。だから……。死を選ぶのだ。

ルカ この世界は、私が望んだもの。決して壊れることのない魔法世界……。

秦 この世界が終わったら、外の世界も終わるのか？

嘉剛 それは私の関知するところではない。私は死ぬのだから……。ただ、この魔法世界は外の世界と密接な相互作用を持っている。魔法世界が、現実へ染み出しているのかも知れない。魔法がこの世界の境界を越えて、その外に影響を与えているのだ。

秦 嘘だ。

嘉剛 嘘ではない。この世界の行く末は、外の世界にも影響を与える。

秦 魔法世界の終わり方によっては……。

嘉剛 私には最悪の結果しか見えない。天使と天使が殺し合うい、そして永遠の闇となる。

秦 なあ、取引しないか？

嘉剛 何を？

秦 外の世界を変える力は俺にはない。だが、この世界の明日を変えることなら……。

ルカ 私はこの世界に永遠にしたいのに……。

秦 なあ、嘉剛。お前に違う終わり方を見せてやる。

嘉剛 ……。

棚橋 秦。別の世界が見えるのか？ アルマロスの羽根に触れば……。

棚橋が秦に近づき、アルマロスの羽根に手を伸ばす。

棚橋 なあ……。

秦 （羽根を握りしめて）勇気はあるか？ 真実を知る勇気……。

棚橋 そこにあるんだろ？ 俺の魔法が何なのかを解く鍵が……。

棚橋が意を決して、羽根に触れる。スパーク。圧倒的な光が客席へと降り注ぐ。暗転の中、金属の引き戸がガラガラと敷かれる音。そして施錠音。ゆっくりと明るくなっていくと、舞台の上に棚橋が一人。台上の暗がりにルカ。

棚橋 あの大洪水のあった日。あの日、あの午後も、俺は留置場の中にいた。留置場管理官としての24時間勤務。当然、橘と一緒にだ。石間組のヤクザはすでに処分保留で釈放されていて、この留置場にも安らぎが戻って来ていた。担当さん、お茶！、「担当さん、紙！」……。いつもと同じ、何もない平和な午後だった。だが、2時46分。猛烈な揺れが留置場を襲った。立ってられないほどの揺れだった……。

地鳴り。ぎしぎしと金属が軋む音。警告音が鳴り響く。

棚橋 勾留された者達がみな悲鳴を上げている。傍らでは橘が床にへたり込んでいる。今まで体験したことのない振動が一分以上続いたろうか。知らないうちに床に身を伏せていた俺は立ち上がり、警告音をオフにした。（警告音が消え、不気味なほどの静寂が訪れる）橘、勾留者の安否の確認！

と、ドアを激しく叩き付ける音。

棚橋 橘、何をしている！ ……橘が留置場のゲートを叩いている。

(橘) 開かない！ 開かない！

棚橋 当たり前だ。外からしか開閉できないだろ！ 橘はパニックに陥っていた。これだけの地震だ。警察署の建物自体も相当な被害が……。緊急電話を取る。通話不能……。

ドアを激しく叩き付ける音。

棚橋 やめろ、橘！ 待っていれば、やがて状況を確認するために外から……。勾留者達が泣き声とも悲鳴ともつかない声を張り上げ始めた。俺も不安になってくる。この外は本当に大丈夫なんだろうか？ 警察署は無事なのだろうか？ まさか倒壊して、生き残っているのは俺たちだけ？ 瓦礫に埋もれ、生き埋めになっているじゃないだろうな。急に息苦しくなる。閉じ込められている恐怖が喉元までせり上がってくる。俺はそれを飲み込んで、声を限りに叫んだ！「落ち着け！」だが、そのうわずった叫びが、不安をさらにかき立てただけだった。留置者の、橘の、そして俺自身の……。

人々の叫び声。橘の叫びが一際目立っている。

棚橋 緊急電話は無音のままだ。通信システムがダウンしているのか？ 狂ったようにスマートフォンを弄っていた橘がそれを叩き付ける。

ガシャンという音。男達の悲鳴と嗚咽。

(橘) 棚橋さん、キーを！

棚橋 キー？ 緊急開錠スイッチのキーか！ 天変地異により建物自体に倒壊の危険が迫った場合、留置者の命を守るため、すべての鍵を開け放つことができる。当然、俺たちの一存でそれができる訳じゃないが、緊急開錠スイッチのキーは俺と橘の二人に持たされている。落ち着け、橘。緊急開錠スイッチは、留置場のゲートだけではなく、留置室の鍵も開錠してしまうんだ。緊急事態でもない限り……待て、今がその時か？

(と、何かに気付く) おい、音。警告音が聞こえないか？ 静かにしろ！ 警告音だ。外で警告音が鳴り響いている。その微かな音を聞き取ろうと俺は耳をそばだてる。幾多のスピーカーから響いているだろう警告がエコーのように重なって、その内容を聞き取るのが難しい。

(橘) つ、津波警報……？

棚橋 そうだ、津波警報だ。さっきの地震の震源が海底であつたら、津波が海岸を襲う。

(橘) 和美が！

棚橋 橘が声を張り上げた。海の見える瀟洒な新居。音もなくそれに向かって突き進む大波。そのイメージがリアルに浮かび、恐怖を増殖させる。

(橘) 棚橋さん！ 早くキーを！
棚橋 だめだ。指示がない限り、緊急開錠ボタンのキーを差し込むことはできない！ いや、その指示なんか本当に来るのか？ 迫り来る津波。一秒でも遅れたら、橘の嫁は……。いや、すでに避難を開始しているはずだ。きっと、確実に……。だめだ。緊急開錠スイッチを起動することはできない。俺は瞼を固く閉じる。その時だった。瞼の裏に、浮かび上がってくるイメージ。制服を着た女の子。廃物利用の船の上で仁王立ちになり、海を指差して叫んでいる。

舞台後方に仁王立ちのルカ。

ルカ 面舵一杯！
棚橋 まさかあの子は今日も浜辺に？ 逃げろ！
ルカ なんで？ 晃君さ、キャッチボールする？
棚橋 津波警報が聞こえないのか！ 頭を振ってそのイメージを振り落とそうとする。そんなことはない。そんなことなんかない。彼女は浜辺に突っ立っているなんてことはない。不安が産み出した幻影だ。何度も何度も首を振る。幻影を振り落とそうと何度も……。

(橘) 棚橋さん！ 早くキーを差し込んで下さい！
棚橋 俺は首を振る。何度も、何度も首を振る。だが、幻影が、大波が彼女を呑み込み、あの「がらくた」の船とともども、ばらばらに破壊するイメージが心の中にさらに広がっていくだけだ。汗が噴き出す。不安が喉元まで上がってきて、悲鳴に変わろうとする。叫びだしたい気持ちを抑え込もうとすればするほど、それは力を増して逆に心を潰そうとする。

(橘) 棚橋さん！ 早く！

棚橋、首に下げたネックレス状の鍵を手に取り、鍵穴に指す。(金属音)

棚橋 橘。1、2の3で回すぞ。1、2の3。

ガチリと幾多のロックが解除する音。警告音が高鳴り、やがて尾を引いて遠くなる。

棚橋 悲鳴を上げて走り出る橘。それを追うように拘留者達が叫びながら外へと走り出る。俺もまた走り出た。外は戦場のようだった。全員がパニックを起こしている。逃げ出した拘留者達を目で追う者はいたが、それを追い掛けようとする者は一人もいなかった。パトカーのサイレン。怒号。至る所で響き渡る津波警報……。俺は一台のパトカーに向かって走り出した。海へ、彼女のいるあの海岸へ向かわなければならない。一秒でも早く……。

潮騒が響き始める。遠くで、警報。

棚橋 車を止めて、俺は浜辺を走った。「ルカ」と何度も叫びながら。海面は遙か遠くまで後退していた。大潮の時にも見たことのない異常な引き方だ。海岸線の向こうに急速に雲が湧き上がってくる。季節外れの積乱雲……違う！ あれは……。俺は走った。ルカの船まで。船？ いや、のような「がらくた」だ。ポリタンクを縄で縛って板を乗せ、ダンボールで装飾された、お世辞にも海にこぎ出せるようには見えない「がらくた」……。ルカがそこにいるような気がして仕方なかった。きっと思い過ごしなのだろう。だが、どうしてもその想いを振り切れないのだ。

ルカ （明かりが射す）廃物利用の船。エコロジー感炸裂のカーボンリサイクル。究極のゼロエミッション！

轟音。津波が迫ってくる音。

棚橋 津波が迫っている。俺はなんて馬鹿なことをしているのだろう。思い過ごしで、浜辺まで来て、津波にのみ込まれて死ぬんだ。視線の向こうに、何かが見えた。小さな堤防の向こう側で黒い旗が羽ばたいていたのだ。黒地の布に白いどくろのマーク……。待て、あの動きは、風に弄ばれているだけじゃない。誰かが振り回しているんだ。ルカだ！

ルカ （旗を振り回す仕草）誰か！ 誰か、助けて！

棚橋 （腰を折って、呼びかける仕草）ルカ！

ルカ えっ、晃君！ 助けに来てくれたんだ。まるで天使！ 私、天使に向かって助けを求めてたの。この旗を振って！

棚橋 どうしてこんなところにいるんだ！ 警報が聞こえないのか？

ルカ 私、足を挫いて動けないんだ……。

棚橋 今そっちへ行く。（飛び降りる仕草をした後、台上に駆け上がる。足を確かめ）痛いかな？

ルカ うん。とっても……。

棚橋 ルカの顔色は真っ青だった。きっと、ショック症状だろう。これは挫いたわけじゃない。ひびぐらいは入っている。肩を貸すから、片足で歩け。早く逃げないと……。

ルカ （悲鳴を上げて）無理。痛くて動けない。

棚橋 津波が迫っている。ここにいては…… そう言いながらも、もう逃げる時間がないことに俺は気付いていた。

ルカ もう無理だよ。逃げられない。折角の船も地震で壊れちゃった……。

棚橋 あきらめんな！

轟音。津波が迫ってくる音。

棚橋 俺のその叫びは迫り来る津波の轟音で掻き消されただろう。ルカを抱きしめて耳元で叫んだ。「キールに損傷を受けていますが、この船はまだ大丈夫です。帆を上げて出航しましょう。出港指示を！ 船長！」

ルカ 晃君。逃げて……。一人で逃げて……。

棚橋 ルカが泣いている。幾筋もの涙が頬を伝っていた。「船長を残して逃げ出すわけにはい

きません」
ルカ 船長の命令よ（涙声になっている）
棚橋 船長の命令は絶対ですが、こればかりは従うわけにはいきません。
ルカ 馬鹿だよ……晃君。
棚橋 はい。出港の指示を！
ルカ （涙声で）帆を上げよ！
棚橋 宜候（よーそろー）
ルカ （涙声で、もう声にならない）面舵……一杯！
棚橋 宜候（よーそろー）！

津波が迫ってくる轟音。

棚橋 俺はルカをきつく抱きしめ、ポリタンクに縛り付けられていたロープをもう一方の手に巻き付けた。ビルほどの大きさの津波が目前まで迫っている。もし俺が、留置場管理官ではなく、ルカが言うように天使だったらいいのに……って心の底から願った。もし天使なら、俺たちを天が助けてくれるはずだから……。

津波が二人をのみ込む。暗転する舞台。

津波の轟音が去る。暗がりの中、ルカの声が重なる。

「（涙声で）晃君……。晃君……」

ゆっくりと明るくなっていく舞台。奥台上にルカ。舞台の中央に棚橋。

棚橋 俺は瞼を開く。白い靄のようなものが視界の先にあった。空だ。どんよりと垂れ込めた雲。耳元でルカの声がする。ルカの方を振り向こうとするが、身体が動かない。瞼をもう一度固く閉じる。津波がなだれのように迫ってくる映像が脳裏をかすめる。それに巻き込まれ、気を失った。いや、俺たちは死んだのだ。すると、ここが天国か？ いや、天国ではないだろう。とても半裸でダンスできるよう快適な環境ではない。寒かった。身体の芯まで凍り付くような寒さだった……。

ルカ 晃君……。

棚橋 また、耳元で声がした。ルカの声の方向に顔を向けようと力を込める。グポッと言う音とともに泥から頭が抜けた。視界の先にルカがいた。崩れ折れて泣きじゃくっていた。どこかの海岸。見渡す限りの瓦礫……。「怪我はないか？」

ルカ （泣きながら頷く）うん、大丈夫。足以外は……。

棚橋 俺は胸を撫で下ろす。挫いた足以外は、大きな怪我はしていないようだ。「なあ、ルカ。身体が一切動かない。俺の手足はまだ身体に残っているか？」身体全体が痺れている。自分自身の有様を自らの目で確かめるのが怖かった……。

ルカ 布が絡みついている。シーツみたいな大きな布……。

棚橋 布？ 確かにルカの言うとおりであった。泥だらけのシーツが身体に巻き付いていた。ルカが腰を引きずって俺に近づいて、そのシーツを剥がそうとする。水を吸ったシーツはぴったりと身体に張り付き、そう簡単に剥がすことは出来ない。だが、ルカは全

身の力を込めて、それを引き剥がしてくれた。俺の両腕が自由になる。上半身を起こし、腰から足先まで巻き付いているシーツを剥がしにかかる。まるで、ミイラだ。ルカに発見してもらえなかったら、この瓦礫の中で本当にミイラになっていただろう。足にも腰にも怪我はなかった。このシーツが俺自身の体を守ってくれたのか。俺は立ち上がる。首の後ろにシーツが硬く巻き付いていて、その重さでよろけそうになる。俺は腕を伸ばし、シーツの両端を握って引き離そうと力を込めた。

ルカ 天使の翼……。

棚橋 ルカが呟いた。

ルカ 天使の翼。

棚橋 両肩から垂れ下がった泥だらけのシーツ。まだらに汚れたそれは、不格好に過ぎるが、翼に見えないこともなかった。

ルカ 晃君。やっぱり天使だ。私が天使に向かって助けを求め、晃君がここにやってきたんだから……。

棚橋 天使？ ただのおっさんだぞ？

ルカ 天使がおっさんの姿をしていてはダメなの？ 「ベルリン天使の詩」だって……。

棚橋 「見たのか、ヴィム・ヴェンダースの映画？」

ルカ ねえ、知ってる？ この世界は魔法で動いてるって……。

棚橋 ルカの作ったあの不格好な船はどこにもなかった。ばらばらになり、海の遙か遠くへでも流されてしまったのかも知れない。俺はルカを背負って瓦礫の中を歩き始めた。瓦礫から着きだした腕。泥に中にうつぶせに倒れている死体。まるで地獄の中を彷徨している気分だ。ルカは惨状を視界に入れないように俺の背中に顔を埋めて、天使の話をし続けた。200 人のグリゴリが人間の自由さに憧れて墮天したこと。鉄の精錬や文字、天文学といった天界の秘術を人に伝え、生活を豊かにしてきたこと。

ルカ 私のパパが働いているあの発電所。あの発電はネフィリムという天界の秘術によって行われているんだ。グリゴリが人類に伝えたんだ。だって、パパがそう言ってた。

棚橋 瓦礫の中をひたすら歩く。この先に破壊を免れた病院があることを信じて。

ルカ グリゴリの中で一番強いのはシェムハザイ。だって、すべての魔法使いの起源だもん。でもね、私の一番のお気に入りにはアルマロス。すべての魔法を跳ね返す護符（タリスマン）の秘術を持っているから……。

棚橋 背中から聞こえてくるルカの問はず語り、その魔法世界の話を聞きながら、俺は見渡す限り瓦礫だらけの荒れ野を、色彩を失った風景の中を、ただ歩き続けた。遠くで鳴り響く警報が雲の垂れ込めた空全体を満たしていく……。

幾多のエコーを伴って聞こえる警報。暗転していく舞台。

と、唐突に警報がリバーブを伴ってカットアウトする。

9. 準備は着々と

石間と滝野がいる。口元には防塵マスク。電話している。【台詞は録音ですかね？】

滝野 アルマがいようがいまいが、いいから、トラックで立ち入り禁止地帯まで入れ……ああ、そうだ凍土壁越えて、一号炉の側だ。防塵服と防塵マスクしてるんだから、大丈夫だっつーの……こら、御託ならべるんじゃないやねえ。青木！ やるか、死ぬか、だ。俺だってここまで出張って来てるんだぞ。時間通りに完了しなきゃ、俺の首が飛びかねえ……いや、お前の首を俺が飛ばすぞ！

ガスマスクで顔を覆った石間がパピオンを抱えて登場。よく見るとパピオンもガスマスク。

石間 どうだ？ ちゃんと進んでるか？

滝野 はい……（振り返り、その姿に驚く）って、誰だ、お前？

石間 儂だ！

滝野 オヤジ？ なんすか、その大仰な、ガスマスクは……。

石間 馬鹿野郎。炉心から離れているとは言え、ここだって魔法粒子がギンギンなんだぞ！

滝野 それにしても大仰過ぎでしょ、それ……。

石間 大げさもクソもねえ！ うっかり吸い込んだら、体内で魔法粒子が暴れまくって大変なことになるだろうが、んー？ つーか、なんでこんなことまで、儂ら自らしなきゃならんの？

滝野 まあ、そりゃそうですけど。挟井さんは、突然日暮れまでにしろって言うし、そんな時に肝心のアルマが見つからないし……。

石間 お前、まるで、挟井の舎弟だな……何つつたっけ？ 挟井が言ったのは……。

滝野 眷族……ですか？

石間 おう。それぞれ。お前、まさに眷族じゃん。まさか、お前グリゴリのハイブリッドじゃ……。

滝野 まさか？ オヤジこそ、ハイブリッドなんじゃないですか？

石間 んなわきゃないだろう。

滝野 とにかく、俺は首ちょんぱが怖いだけです。つーか、あいつは確実にやりますよ。首飛ばすときは飛ばします。あいつは「やる目」をしています。仲間に使わないとか言いながら、舌の根も乾かぬうちに、やっちゃうタイプですよ。しれっと……。

と、滝野の背後にいつの間にか、挟井が立っている。

挟井 しれっと……何をしちゃうタイプだって？

滝野 （大層驚いて、脈絡もなくロボット・ダンス）

挟井 おやまあ、こんな時でもロボット・ダンスの練習？ さすが、落ち着いたものね。

石間 落ち着いているわけではないと思うけどね。
挟井 (振り上げた滝野の手から携帯をもぎ取り、耳に当てる) 青木さん。挟井よ。もう、大丈夫。アルマがそちらへ向かったから。見つけた？ ねえ、アルマに代わって。…
…あっ、アルマ？ そちらは任せたわ。あなたがチャームを使っている限り、問題なく終わる。あなたを中心にした半径 20 メートル。チャームの魔力が及ぶところでは、魔法粒子の影響はすべて無力化されるんだから……。トラックの荷台に積んだシュラウドをフォークリフトで降ろすだけ。でも、重さは 2 トンもあるから、気をつけて。それから先は眷属達がすべてやる。そう、指示の必要はない。アルマは見ればいいだけよ。んー、チャームは絶対に切っちゃダメだけどね。

と、電話を滝野に返して、石間に近づき。

挟井 怯えることはないわ。ここは、そんなに魔法粒子の影響はないから。
石間 そんなこと言っても、(滝野に) こっちの方が楽し……。それに台詞、録音だしね。
挟井 アホか？ (石間のガスマスクを剥ぎ取る)
石間 (えらく慌てて、口をぱくぱく金魚みたいに動かしつつ) こら、何をするんだ……。返せ……。返せ……。
挟井 お前もだ。(と、滝野の防塵マスクも剥ぎ取る)
滝野 (えらく慌てて、口をぱくぱく金魚みたいに動かしつつ) こら、何をするんだ！
挟井 大丈夫だって。
滝野 信じられるかって一の！ 突然日暮れまでに、目の詰まった投網みたいなあれを、トラック積んで、ここまで……。つーか、凍土壁の中まで運べって、正気の沙汰じゃないだろ……。 (と、挟井が右手を振り上げるので、言葉に詰まり) あっ、すみません、すみません。首だけは……。
石間 つーか、挟井さん。何だってこんなに急いでるわけ？
挟井 明日やらなきゃ行けなくなったの。
石間 明日？ 急だなあ……。
挟井 そう。確かに急ね。まあ、準備万端だからいいんだけどね。
滝野 で、何で急に決めちゃったわけ、それ？
挟井 決めたのは私じゃないわ。だって、明日それが起きるって言うから。
滝野 それが……。起きる？
石間 起こすんじゃないくて？
挟井 そう、地震が起きる。
滝野 地震？
石間 どこで？
挟井 ここで。
石・滝 ここで！
挟井 熊本で起きたのは、天界からの単なる警告。本当の目的は、ここ。
滝野 熊本とここじゃ、離れすぎているだろ？
挟井 その地下は、つながっているのはご存じ？ 熊本はその西の端。そしてここがその東

の端。

滝野 あんなに離れているのにつながっているってわけ？

挟井 そうよ。だから、ここで地震が起きる。

石間 起きたらどうなる？

挟井 どうなると思う？

滝野 だから、どうなるの？

挟井 どうなると思う？

照明が奥の台上に振り替わる。そこに立っていたのは、アルマロスと嘉剛である。

嘉剛 突貫作業だな。

アルマ なんだ、来てたの？ 全知なる者。

嘉剛 作業の進行を見たくてね。

アルマ 魔法粒子は怖くないの？

嘉剛 どうせ明日は死を選ぶ身だ。それに、アルマの側にいる限りは、恐れることはない。

アルマ いい気なもんね。で、知っていたの？ このネフィリムに集められた作業員の多くがグリゴリのハイブリッドだったってこと……。

嘉剛 ああ、うっすらと見えてはいた。だが、重機だけではなく、手作業でもデブリを運ぶとは想像すら出来なかった。なあ、こうやってデブリを1箇所を集めると、魔法粒子の影響によってウラヌスが臨界に達するぞ。

アルマ もうウラヌスはブチギレ始めているわ。私のチャームで抑え込んでいるだけ。

嘉剛 クロコスを編んで作った巨大な投網の中で猛り狂うデブリ、か。

アルマ シュラウド。あの強大な投網をシムハザイは、そう呼んでいた。

嘉剛 シュラウド。亡骸を包む布？。最高のネーミングだな。魔法粒子をふんだんに含んだデブリを包むものとしては……。

アルマ からかってるの？

嘉剛 揶揄しているのではなく、感心しているのだ。ホーリー・シュラウド。それは……。

アルマ 聖骸布。

嘉剛 そうだ。神の子の亡骸を包んだもの……。お前達はそれにデブリをくるんで、天界に向けて飛び立つ。2000人の眷属達とともに……。その魔法粒子は天使をも殺す。ネフィリムはだからこそ、天界の秘術なのだ。ネフィリムが人の手に渡ること。それ、すなわち、天界を破壊する兵器を人類に与えることに他ならない。

アルマ まさにその最高の武器で、私たちは天界と戦うの。

嘉剛 勇ましいな。だが……その戦（いくさ）は、戦端が開かれた途端に、終わる。

アルマ やなことというのね。

嘉剛 シムハザイは地の底に墮とされる。まるで、あの時のように……。

アルマ 彼は言った。「わたしは、サタンが天からいはずまのように落ちたのを見た……」ルカによる福音書10章18節……。

嘉剛 サタン、つまりルシフェルをミカエルが撃破した時のようにだ。そして、この臨界に達したデブリは天界に到達することなく、この地に雨のように降り注ぐ……。

アルマ シェムハザイが簡単にミカエルにやられるとは思えないけど。

嘉剛 私には見えているんだ。天界にいるのはミカエルだけではない。ラファエル、ガブリエル、ウリエル……。

アルマ そして、ラゲエル、ゼラキエル、レミエル〔←エノク書に基づく七天使〕……か。
(ため息をつき) ねえ、私も死ぬの？ そして、世界は終わるの？

嘉剛 確かに、お前の死は世界の終焉を意味する。その時、この世界が終わるなら……そうであるのなら……私も死を選んだりはしないはずだと思わないか？

アルマ どういうこと？ 私は死なないってこと？

嘉剛 グリゴリの指導者、アザゼルはどうなった？ アザゼルは握りつぶされて、オリオン座に逆さまに吊された。お前は、オリオンの対局に位置するサソリ座に縛り付けられる。サソリの毒が身体にまわり、すべての筋肉が弛緩した状態で、だ。動けず、何も喋れず、うめき声を上げることも出来ずに……永遠に生き続けることになる。驟雨のように降り注いだデブリによって焼けた大地で、お前が憧れ、そして愛した人類がもたえ苦しみ、やがて死に絶え、骨と化し、塵になって風に飛ばされる様を、南の空からただ見続けるしかない……。

アルマ この世界は終わらない。私は永遠の中で身動きひとつ取れぬまま、眠るようにして生きるだけ。ねえ、全知なる者。万が一にも、私たちが辛くも勝利する絵ヅラは見えないの？

嘉剛 (首を横に振るが) だが……。万が一の可能性として、別の未来がないわけではない。それは、殺戮天使がシェムハザイを倒した場合だ……。シェムハザイの魔力が潰えれば、眷属達の翼も消え失せ、天界への進軍は無理になる……。

アルマ そんな馬鹿なことあるわけじゃない。あいつらはアマダスの弾丸をたった一発しか持っていないというじゃない。それで、シェムハザイを倒せるわけが……。

嘉剛 ただ、どちらにしても、お前はひとりぼっちになる。(独りごちるように) それは一緒だが、意味が違ってくる。

アルマ 意味が違う？

嘉剛 お前が何を為すことが出来るのかを考えてみてはどうだ？ 万が一にもそうなった場合には……。

アルマ 万が一どころか、億が一、つーか、天と地がひっくり返ってもそれはないわね。

嘉剛 そうだな。だから、私は明日死を選ぶのだ。(と、眼下を顎で指し) 重機が帰って行く。炉心直下からデブリをシュラウドへ移す作業が完了したようだな。明日は天界との戦争だ。眷属達に休養を与えておいた方がいい。だが、お前はここにいるしかない……か。ウラヌスの怒りを鎮めることが出来るのはお前だけだ。

アルマ ねえ、全知なる者。不幸以外の何ものでもないわね。未来が見ちゃうのって……。

舞台が溶暗する。

10. 棚橋の魔法

舞台のへそに棚橋。舞台奥台上に松葉杖をついたルカ。

棚橋 ルカが入院したのはここ、常磐中央病院だった。地震の被害は深刻だったが、かろうじて病院業務を続けていたんだ。電源の確保も重要な問題であったが、当日非番であった医師の多くが大洪水によって帰らぬ人となったことが病院の運営を更に厳しいものとしていた。ルカの足はやはり骨折だった。足首だけではなく、大腿骨にもひびが入っていたらしい。足首から太もも全体に及ぶプラスターが痛々しかった。不幸中の幸いか、それ以外の怪我らしい怪我は見当たらなかった。あの洪水は、ルカの命を奪いはしなかった。だが……。それは彼女から彼女以外のすべてを奪い取っていったのだ。

間欠的に流れる映像。瓦礫だらけの浜辺、倒壊した建物……。簡易死体安置場。シーツから飛び出した小さな足の裏。陶器のように蒼白な皮膚の色。親指に取り付けられたトリアージタグは救命の見込みがないことを示す「黒（カテゴリー0）」だった。ルカと楽しそうに食事をする民恵の写真が連続してオーバーラップしては、淡くディゾルブして消えていく……

ルカ 嘘よ……。民恵（たみえ）おばちゃんが……。どうして……。

棚橋 有馬民恵。ルカの母親の妹だ。ルカが14歳の時に母親が亡くなった後、話し相手となってくれたのが民恵だ。心を許せる唯一の肉親だったんだ。浜辺近くに居を構えていた有馬民恵はあの洪水に巻き込まれた。

ルカ 嫌だ。こんなの嘘だ……。

棚橋 大洪水だけではない。さらなる不幸がこの街を、そして彼女を襲う。あの発電システムだ。電源喪失によってコントロール不能に陥ったんだ。

ネフィリムの映像。吹き上がる白煙。

棚橋 ドライブントにより放出された粒子。それが風に乗って北西部に広がった。

舞台後方台上の袖にいる嘉剛が光の中に浮かび上がる。焦燥しきった表情だ。

嘉剛 ルカ。ドライブントで放出された放射性物質はもはや科学の力ではどうにもならないんだ。化学的に分解することも、微生物を用いて無毒化することもできない。拡散したそれは100年も、いや1000年も、毒として存在し続ける。

ルカ 科学ではどうにもならなくても、パパの魔法で……

嘉剛 魔法……。

ルカ （激しく首を横に振り）パパは言ったじゃない。

嘉剛 ルカ。あの発電システムは科学だ。魔法ではない。科学では対処不可能な科学……それによって、あれは動いていた。(両手で顔を覆い) 我々はなんていうことをしてしまったんだ。取り返しの付かないことをしてしまったのだ。決して手を出すべきではなかったのだ。(泣きじゃくる)

ルカ 泣かないで、私が……。私の魔法で……。だって、あれは魔法なんだから、グリゴリから伝えられた天界の秘術……。だから……。

嘉剛 (ゆっくりと首を横に振り) 魔法なんかではない。

ルカ 魔法なの。魔法じゃなきゃならないの。あれはグリゴリ達によって人類にもたらされた天界の秘術。ネフィリムなの！

声を限りに叫ぶルカ。嘉剛が手にした拳銃を持ち上げ、その銃口を口に咥える。

ルカ すべては魔法なの！ だから、すべてを無力化できる。ねえ、私はアルマロス！ だから、すべてを……。

泣き叫ぶルカ。銃声はその叫びを止める……。嘉剛への明かりが消え、立ち尽くすルカ。尾を引く銃声が消え入る寸前、ルカが蚊の鳴くような声で力なく呟くのが聞こえた。

ルカ 私はアルマロス。だから、すべてを無力化できる……。

棚橋 ルカ……。

そう呼びかけても、ルカは動かない。まるで全身が硬直してしまったかのように……。

棚橋 なあ、ルカ……。元気になったらキャッチボールを……。

ルカは呼びかけに答えない。まるで聴力を失ってしまったかのように……。

棚橋 ルカはそれ以来口を開かなくなった。俺は毎日彼女の病室を訪ね、そして呼びかけた。だが、その呼びかけに答えることは一切なかった。彼女は白いベッドの上で、ただ虚空を見つめたまま、沈黙を守り続けた。いや、一度だけ……。たった一度だけ……。

ルカ どうして私を助けたの？

棚橋 ルカ？ 今なんて言ったんだ？

ルカ どうして、私を助けたの？ あのまま、あの場所で、死にたかったのに。あの船で、ママがいるところに行けたのに……。

棚橋 ルカ、俺は……。

ルカ (急に声を荒げ始め) ねえ、どうして私を助けたの！ どうして、私をあそこに置いて、逃げてくれなかったの！ ねえ!!

叫び声とともに、松葉杖を高く振り上げるルカ。と、ストップモーション。
松葉杖が肉を叩き付ける音が響く。

棚橋 手にした松葉杖でルカが俺を殴りつけた。肩口を殴りつけられ、俺は倒れ込み、床に手をついた。松葉杖が俺の背中に執拗に打ち下ろされる。なんども、なんども……。

松葉杖が肉を叩き付ける音が連続して響く。

棚橋 そのたびに、ルカの目から溢れ出た涙がしぶきとなって降り掛かってくる。幾度も振り下ろされる松葉杖。肩胛骨が割れるような痛みに俺は耐え続ける。やがて、皮膚が割けた。俺が天使だったら翼が付いているだろう、そのあたりの皮膚がすり切れて破れたんだ。裂けた皮膚から流れ出た血が、肩口から腕を伝い、床の上をゆっくりと広がっていく。それでもなおルカは殴打の手を止めることはなかった。まるで、その打撃で天使の翼をもぎ取ろうとでもするように……。

松葉杖が肉を叩き付ける音

呟きながらも棚橋はゆっくりと項垂れ、台詞の終わりで床に手をつく。

と、力尽きたように台上に座り込むルカ。その臉がゆっくりと閉じられる。

パルス音が小さく響き始める。白衣姿の但峰と大念が台上袖に現れる。

但峰 ……目覚めることなく、眠り続ける。コーマ。我々はそう呼びます。

大念 つまり、有馬ルカさんは昏睡状態に陥った……。

棚橋 おい、大介君？ 楓ちゃん？ 一体……。

棚橋の言葉が不意に途切れる。但峰と大念が怪訝そうな表情になったからだ。

但峰 どうかしましたか？

棚橋 いや……。 (と、言葉を濁す)

大念 確かに意識はないように見えます。ですが……。

但峰 決して脳死状態にあるわけではない。

大念 自発呼吸、脳幹反射、光に対する瞳孔の反応だって見られています。

但峰 つまり、回復の可能性はあるということです。

大念 微弱ですが脳波も検知されているんです。

但峰 紡錘波形の脳波。つまり、レム睡眠です。彼女は夢を見続けているのかも知れません。ただ、すぐに対応するのは危険です。現時点では経過を観察するのが一番だと思います。

(但峰、言い切って退場する)

棚橋 なあ、楓ちゃん。原因は……。 (と、大念が怪訝そうな表情を浮かべるのを見て、口調を変え) ねえ、先生、こうなった原因は？

大念 原因は分かりません。ただ、肉親を失ったことが引き金になったのは疑いありません。深い悲しみの中で彼女は意識を失った。いえ、もしかしたら、自らの意志で……。

棚橋 自らの意志？

大念 自らの意志で夢の世界に閉じこもった。

棚橋 救う方法は？
大念 目覚めさせる方法がないわけではありません。依然研究段階ですが「脊髄後索電気刺激療法」というやり方があります……。
棚橋 脊髄後索……？
大念 それに関しては、経過観察の後、但峰先生がご判断されると思います。ですが、彼女に目覚めようとする意志がないのであれば、どんな医学療法も意味を成さないんです。
棚橋 目覚めようとする意志？ なあ、それは、どうすれば？
大念 昨夜、巡回中に、私は彼女が呻くのを耳にしました。耳を澄ませていなければ聞くことができないような、小さなため息のようなものでした。私は彼女のもとに駆け寄り、そして見たのです。固く閉じられた彼女の瞼の隙間から涙が止めどなく流れ出しているのを……。その悲しげな表情を見て、私たちの医療、つまり科学の力では彼女を目覚めさせることは出来ないんじゃないかな……そう感じてしまったんです。ルカさんを目覚めさせるのは、唯一のご友人であるあなたかもしれません。
棚橋 唯一のご友人？
大念 （笑って）あなた自身がそう言ったんですよ。彼女の唯一の知人だと……。
棚橋 だ、だって、関係を問われたらそう言うしか……。モノローグとなり）実際、ルカの病室を訪れるのは、俺だけだった。高校の友人も、近所の住民すらも、誰一人として……。『友達なんていない』そう言った彼女の言葉は本当だったのだろう。
大念 医療は、科学は万能ではない。どんな最先端の医療技術だって、患者の意志を越えて、効果を及ぼすことはありません。もしかしたら、ルカさんを目覚めさせることが出来るのは、きっとあなたかも知れませんね。あの洪水の中で彼女を救ったあなたなら……。そう。あなたはその力を持っている。
棚橋 俺が……？
大念 魔法によって長い眠りについた白雪姫を目覚めさせたのは、王子様であって、医者ではない……でしょ？

スパーク音。倒棚橋に背後から近づく、三つの影。秦、樋村、壬生である。

秦 棚橋。何を見た？
樋村 お前には何が見えた？
壬生 ねえ、あなたの魔法は……。

と、照明が棚橋だけとなり、モノローグとなる。

棚橋 魔法……。そんなもん端からなかった。いや、俺は天使な天使ですらなかった。俺の持っている天使に関する記憶はすべてルカが教えてくれたものだ。だとすれば、俺が生きているこの世界は何だ？ ルカが語ってくれた「天使と天使が殺し合う悲しい物語」。それを地でいくような、この魔法世界は……。待て！（何かに気付く）ルカは自ら望んで、意識を失った。永遠の夢を見続けることが出来るように……。だとすれば、ここは！ なあ、あの時、彼女は何と叫んだ？

照明が元に戻る。

棚橋 俺が見たのはルカだ。ルカとの思い出だ。
樋村 ルカ？
棚橋 向こうの世界にいる女の子だ。この病院に入院している。
秦 この廃墟にか？
棚橋 ここは……廃墟じゃない。
壬生 ええ。向こうの世界では、病院として存在しているの。この外来受付にはたくさんのベンチが置かれていて、何人も座っている……。
樋村 匡子、見えるのか？
壬生 見えるわけじゃなく、感じるの……。私もここにいた。
樋村 お前も、ここに？
秦 アルマロスがこの世界に穴を穿った。外の世界につながる穴……。
壬生 でも、この世界が、その穴を通して単に外の世界につながっただけじゃないわ。
樋村 魔法世界が、現実へ染み出している……。確かにヤツはそう言った。
棚橋 そして、大介君と楓ちゃんがその流れに押し流された……。
壬生 晃。それを見たの？
棚橋 思い出したんだ。大介君はここ、常磐中央病院の神経科の医師だ。そして、楓ちゃんは……。
壬生 研修医？
棚橋 今じゃ、立派な常勤職員だよ。
壬生 （それを聞いて慈母のように微笑む）そう……。
棚橋 彼らはルカの担当医だ。5年間眠り続けている眠り姫の……。

手にしたアルマロスの羽根を握りしめ、瞼を固く閉じる。スパーク音。
棚橋と大念だけの明かりに変わる。

大念 今日もいらしてたんですね。（ベッドに横たわったルカにでも話しかけるように）ルカさん。今日も王子様が来ましたよ。（棚橋に微笑みかける）棚橋さんがキスしたら目覚めちゃったりして。
棚橋 よして下さい。俺はただ……。
大念 ただ、なに？
棚橋 彼女とまた、キャッチボールしたいだけだ。
大念 キャッチボールしてたんですか？
棚橋 ルカはこう見えても剛速球を投げれるんだ。キャッチボールは上手くできても、言葉のキャッチボールはそうはいかない……。そう漏らしてたかな。
大念 （表情を急に引き締めて）有馬ルカさんの肉体はすでに限界に達しています。いえ、生命徴候だけではなく、その精神も……。脳波がどんどん弱まっているんです。
棚橋 じゃあ、このままでは……。

大念 （ゆっくりと頷いて、重々しい口調で言葉を継ぐ）但峰先生が「脊髄後索電気刺激療法」の治療開始を決定しました。開発中の技術ですが、覚醒の可能性はあると信じています。施術方法を但峰先生から詳しく説明させていただきます。その結果、ご同意頂けるというのなら……。『唯一の知人』として承諾書にサインして頂けませんか？

瞳を固く閉じた棚橋の頭の中に響くルカの叫び声。「すべては魔法なの！ 私はアルマロス！ だからすべてを無力化できる！」スパーク音。照明が元に戻る。

棚橋 （独りごちるように）この魔法世界を夢想したのはルカだ。そして、この世界の中心にはアルマロスがいる。眠れる創造主は自分に似せてアルマロスを創造した。この世界が魔法で動いていることを確実にするためにグリゴリを作り出した。だが、どうして、それに対応する殺戮天使まで登場させなければならなかったんだ？ どうして陰惨な殺し合いを天使にさせなければならないんだ？ それはルカの中のもうひとつの心の声。相克する感情……。俺たちがすべてのグリゴリを昇天させたなら……。創造主の隠された意図に従い、殺戮天使がそれを完了したなら、ルカは……。

棚橋がゆっくりと瞼を開く。

棚橋 俺に魔法はない……。だが、出来ることがある。それはアルマロスを昇天させることだ。どんな魔法でも倒すことの出来ないアルマロスを昇天させられるのは、魔法を持たない俺だけだ。

秦 そうか……。だが、どうやって？

棚橋 どんな魔法もアルマロスには無力だ。アルマロスは何も怯えることなどない。だが、アルマロスが唯一恐れているもの。それは……。

再び瞳を固く閉じた棚橋の頭の中に、雷鳴のように響くルカの叫び声。「どうして私を助けたの！」轟く雷鳴。棚橋がゆっくりと瞼を開く。

棚橋 それは……孤独だ。

舞台奥台上の大念に明かりが射す。

大念 今度の施術の際、立ち会って頂く事は出来ませんか？ つまり、治療に参加して頂きたいのです。ルカさんの側にいてくれませんか？ 彼女が目覚めた時、お知り合いの顔があつたら嬉しいじゃないですか……。いえ、本当のことを言うと、藁にもすがる気持ちなんです……。実は、今度の脊髄後索電気刺激療法を最後の施術にすると、但峰先生が決定されました。つまり、これが最後のチャンスなんです。

大念への明かりが消え、退場する。

棚橋 孤独に対する恐怖。それがルカを夢の世界に閉じ込めた理由だとするなら。この魔法世界で、同様の状況が生まれた時こそ……眠れる創造主が目覚めるタイミングだろう。アルマロスが消滅するとき、眠り姫が目を醒ます。アルマロスこそ、ルカだからだ。そして、その時、俺はその側にいなければならない。

秦 シェムハザイが昇天し、アルマロスがたった一人のグリゴリとなった時……。棚橋はその側にいる必要があるということか？

棚橋 ああ。そう、約束したから……。

立ち尽くす四人を照らす明かりがゆっくりと明るくなっていく。

壬生 日が昇り始めたわ。

秦 天界は今日動く。その前に片を付ける。

樋村 決戦の日、だな。

壬生 そうね。

棚橋 なあ、アルマロスは今、どこだ？

樋村が〈天空の目〉を開く。セフィロトとともにスクリーンに展開する福島県南部。

樋村 見つけた。アルマロスはネフィリム、それも反応炉にいる。匣子、イントロスコピー！

壬生が樋村に近づき、目をのぞき込む。

壬生 ハイブリッドが見えた。ネフィリムの敷地内にうじゃうじゃいる。

秦 2000 人の眷属達か……。

壬生 それがアルマロスのいる反応炉を二重三重に取り囲んでいる……。

棚橋 二重三重って？

壬生 数百人のハイブリッドがアルマロスを守るように配置されているの。

秦 守るように？ さて、どうやってハイブリッドの防衛線を突破し、主役の棚橋をアルマロスのところに繰り込むか……。

立ち尽くす四人。音響が高鳴っていき、暗転するかと思いきや……。

舞台両袖に駆け込んでくる石間と滝野。照明はその二人に振り替わる。

滝野 オヤジ！ ちょっと待って下さいよ！

石間 待てるか、馬鹿野郎。とにかく、速く逃げなきゃならなんだろう。っていうか、なんでお前こんな大切なときに、車をぶつけちゃうわけ？

滝野 仕方ないでしょ。運転していたら、シューって音が聞こえてきて、クロコスが自分の首めがけて飛んできた気がして、首すくめちまったんですよ。

石間 で、電柱に激突。ベンツのラジエーターがぐしゃぐしゃだぞ！

滝野 自分の首かベンツのラジエーターかどちらか選べって言われたら、迷わず首優先でしょ？

石間 つーか、幻聴で車壊されたら割が合わんだろっ！

と、絹糸が擦れ合う音！

滝野 危ない！ あの女が来た！

と、首をすくめて倒れ込む二人。ゆっくりと振り返るが、誰もいない。

滝野 確かに絹糸のこすれるような音がしたと思ったんですが……幻聴でした。

石間 いや、幻聴じゃない。

滝野 ええええっ！ じゃあ、あの女が！ 一体、どこどこ？

石間 （自分の尻を押さえて）ここだ。

滝野 ええええっ！ オヤジのケツ？ オヤジのケツに挟井の野郎が……。

石間 違う！ イタリア製のシルクのスーツの尻が引き連れて破れた！

滝野 本当すか？ （尻を凝視して）本当だ！ ぱっくり割れていますよ。

石間 ぱっくり割れたな。

滝野 は一よかった。一時は首ちょんばかと思いましたよ。

石間 ちっとも良くない！ 儂のご自慢のスーツだぞ！ と、そんなことより、とにかく逃げなきゃならん。あの女からだけじゃなく、ネフィリムからも。

滝野 確かに。今日地震が来るんでしたよね。直下型の……。

石間 直下型かどうか分からないが、凄いのが来るとヤツは言っていた。今、地震がネフィリムを襲ったら、大変なことになっちゃうだろ！

照明が四人に切り替わる。

秦 もし、地震に襲われた時に、一番危ないのは、一号炉だ。ウラヌスの全量が溶け落ちただけでなく、隔壁のコンクリートを浸食し、外壁の26センチまで迫っている。

樋村 一度熱に炙られたコンクリートは更にもろいか……。

秦 そうだ。地震によって、メルトアウトが起きる可能性がある。

壬生 メルトアウト。ウラヌスが隔壁の外に流れ出る……。

秦 流れ出た場合、地下水の影響でウラヌスの再臨界が起きることだ。

樋村 再臨界。そして、水素爆発。デブリが周辺に広くばらまかれる。

秦 天界が地震を起こす前に、シェムハザイとアルマロスを昇天させる以外、俺たちにチヨイスはない。俺と樋村、そして匡子でシェムハザイを倒す。棚橋はアルマロスだ。

棚橋 分かった。待てよ。たった一発の弾丸でどうやって、シェムハザイを倒す？

秦 たった一発の弾丸じゃない。（腰から短剣を引き抜く）アマダスの剣だってある。

棚橋 そんなんで、クロコスに勝てるのか？

秦 クロコスに通用するかどうかは、希望的観測だがな……。しかし、ハイブリッドなら

これで昇天させることが出来る。通常の弾丸とこの剣で、ハイブリッドの防衛線を混乱させる。棚橋は、その隙を突いて、アルマロスのところまで走り込め。

棚橋 そんなアメフトのランプレイみたいな戦略しか思いついていないわけ？

秦 アルマロスの側にいなければならないんだろ？ 一発でファーストダウン取れ。

樋村 だが、秦。落ち着いて考えろ。敵はハイブリッドだけじゃない。最強のグリゴリ、シェムハザイとアルマロスなんだ。もっと緻密な戦略を……。

秦 確かに、あの二人はともに最強だ。すべての魔法を行うことができるシェムハザイは最強の矛。

樋村 そして、タリスマンの秘術によってすべての魔法を無力化するアルマロスは最強の盾だ。

秦 そう、あの二人はまさに「矛と盾」なんだ。

壬生 矛と盾……矛盾。

秦 ご名答。アルマロスとシェムハザイの魔力は互いに相克する関係にある。

樋村 つまり、同じ場所に同時に打てる駒ではない。

秦 同時に双方の魔力を用いることはできない。奴らは別々に行動するしかない。つまり、俺たちは一発の弾丸であっても、タリスマンの影響を受けずにシェムハザイを倒すことが出来る。

樋村 矛盾……そこに勝機あり、か……。

秦 何を以て勝利とするかは微妙なところだが……。急ごう。とにかく、ありったけの弾丸を積み込んでネフィリムに向かう。楓ちゃん、車を！

棚橋 楓ちゃんは、向こうの世界に吸い出された。

秦 そうだったな。車は俺が運転する。急げ！

脱兎の如く走り去る四人。照明が石間と滝野に振り替わる。

石間 メルトアウト……。で、再臨界。水素爆発……って、どこに逃げても大変そうだなあ。

滝野 オヤジとにかく早く逃げましょう。いつ地震が起きてもおかしくないんだから。1 ミリでも遠ざかんきゃ。ネフィリムからも、首ちょんぱ女からも……。

と、走り去る滝野。ケツを抑えて、「こら待て、滝野」と叫びながら石間も退場する。

11. 脊髄後索電気刺激療法、そして最後の決戦

舞台前方両袖に現れる白衣姿の大念と但峰。

大念　とうとう雨が降り始めましたね。今夜は季節外れの嵐がやってくるようです。県内全域に大雨洪水、落雷警報が出ているみたいですよ。

但峰　そうか……。なあ、楓さん。どう思う？

大念　今夜の嵐ですか？　この前みたいに落雷で変電設備に問題が起きたら嫌ですけど。

但峰　そうじゃない。脊髄後索電気刺激療法のことだ。

大念　行ってはみたものの、状況の改善は全く見られない。GCSは3のまま……。

但峰　確かに、施術中に明確な生理反応が確認されてはいる。だが……。

大念　目覚めようとしないうの肩を揺すったところで……ですか。

但峰　どんな病気だって、そうだ。患者にそれを治そうとする意志がない限りは……。

大念　どんな治療法も意味を為さない。だから、今日の治療を最後にしようと考えた。

但峰　君の意見は？

大念　但峰先生の意向に従うまでです。

但峰　そうか。なあ、壬生先生だったら、こんな時、どうするだろう。

大念　壬生先生はご出身が分析心理学でしたから、大脳生理学の但峰先生とは全く違った考え方をするでしょうね。

但峰　昏睡状態の患者に心理分析なんてあり得ないのに……。

大念　でも、壬生先生なら、患者の紡錘波形の脳波にもっと興味を持ったはずですよ。波形レベルでの解析まで行ったんじゃないですか？

但峰　脳波から夢の内容が分かるはずはないのに、壬生先生はそれを分析しようとするだろうな。そして、小さな波形の徴候を見つけ出し……。そうだ。かつて、壬生先生と昏睡患者の夢に関してこんな話をしたことがあった……。

舞台奥台上の袖に現れる壬生。白衣を羽織っている。

壬生　大介君。ユングはね……。

但峰　ユング？　カール・グスタフ・ユングのことですか？

壬生　（笑って）それ以外のユングを私は知らないわ。あのね、ユングは彼の看ていた入院患者と恋に落ちたことがあるの。まあ、いわゆる不倫ね。その関係は6年も続いた後、破局を迎える。そんなことがあったからかも知れないけど、その頃から彼は毎夜悪夢を見るようになった。

但峰　悪夢？

壬生　大洪水の夢よ。大量の水が都市を襲い、人々を飲み込んでいく。水面に浮かぶ、死体また死体。数え切れない数の骸（むくろ）が、累々と積み重なって……。まさに悪夢ね。そのような悪夢が毎夜彼を苦しめたの。どうしてそのような夢ばかり見続けるのか、彼は考え続けた。

但峰 さすが分析心理学者ですね。で、答えは出たんですか？

壬生 彼が悪夢に毎夜うなされていたちょうどその時、第一次世界大戦が勃発する。そして、彼はこう推察した。彼自身の悪夢はこの予兆であった、と……。

但峰 預言したということですか？

壬生 夢と現実とは底の方で密接に結びついているの。ねえ、グラスゴー・コーマ・スケール 3。深い昏睡状態の入院患者の中には、夢を見続けている者もいるでしょ。脳波が示す連続的な紡錘波形が、それ。外界の刺激に一切反応しないからといって、外界を認識できていないとは考えてはいけない。皮膚感覚はあるし、きっと耳だって生きている。断片的な外界の刺激を、情報を肌で、耳で感じ取り、裸の集合的無意識に無条件に取り込んでいく……。集合的無意識は世界とつながっている。彼らの見る夢とこの世界は密接に関連していて、もしかしたら相互に影響し合っているのかも知れない。現実が夢をはぐくみ、その夢が現実を変えていく……。

但峰 オカルトですよ。それ。

壬生 そうかな……。 (と言って白衣を脱いで、あたかもロッカーにそれをかけるかのようにして、書き割り裏に隠す)

但峰 先生はそう言って、寂しそうに笑った。ねえ、有馬ルカさんはどんな夢を見ているんだろう？ ユングと同じ悪夢かな？

壬生 (手にした羽根を見つめて) 魔法世界の夢よ。

大念 さあ……。でも、彼女の寝顔を見つめていると、その夢が見えてくるような気がするんです。私はその夢の中に取り込まれていた。そんな不思議な感覚が……。

但峰 楓さん。

大念 ごめんなさい。変なことと言って……。疲れているのかなあ。

但峰 実は僕もなんだ。

大念 (驚いて但峰の顔を見つめる)

壬生 それは天使と天使が殺し合う悲しい物語……。

遠くで雷鳴。大念と但峰が退場するのと入れ替わりに、樋村が舞台奥台上に登場し、壬生にオートマチック拳銃を渡す。

樋村 拳銃だ。使い方は分かるな。予備の銃弾も後から渡す。

壬生 (頷いて) ええ。

樋村 普通の弾丸だから、グリゴリを倒すことは出来ないし、ハイブリッドだってそうだ。だが、ほんの束の間だが、動きを封じることは出来る。

壬生 分かってるわ。……ねえ？

樋村 どうした？

壬生 本当にシェムハザイを倒せるのかしら？

樋村 秦はそのつもりらしい。最後のアマダスの弾丸は秦に渡してある……。

壬生 ねえ？

樋村 どうした？

壬生 克爾は何を見た？ あの時、あの廃墟で……。

樋村 お前は何を見た？
壬生 質問を質問で返すのは狡いわ。(悲しげに微笑み) ねえ……私たちはどうしてここに
いるんだっけ？
樋村 俺たちは殺戮天使だ。グリゴリを殲滅するために天界からやってきた。その目的が達
成されれば、天界へ戻る事が出来る。
壬生 天界へ戻る事が出来る。
樋村 そう。やっと戻ることが出来るんだ。

舞台上に現れる秦と棚橋（棚橋は舞台中央、その他の三人は奥台上）。
風が吹いている。雷鳴が遠くで鳴り響いている。

秦 樋村、〈天空の目〉を開け。匡子、樋村の目をのぞき込まずに、イントロスコピーを働
かせるか？
壬生 ええ、どうか。これだけネフィリムに近づいていれば、問題はない。
秦 アルマロス？
樋村 天井が吹き飛んだ一号炉の炉心付近にいる。赤い大きな布のようなものが見える赤い
綱が何本も付いていて……。
壬生 数百人のハイブリッドがその綱を握っている。
樋村 布の中央に何かが乗せられている。瓦礫か？ ねじ曲がった金属のロッドも見える。
秦 おい、まさか……。おいおい、それが天界を攻撃するための兵器ってわけか……。
棚橋 おい。どうしたんだよ。なんなんだ、その兵器って……。
秦 ウラヌスのデブリだ。すでに臨界状態にあるのをアルマロスのタリスマンの力で抑え
続けているんだろう。奴らはそれを持って天界へ攻撃を仕掛けるつもりだ。アルマロ
スがタリスマンの結界を解いた途端、大量の魔法粒子が放出される。
壬生 天界でそれが起きたら……。
秦 （首を横に振る）天界ごと帰還困難区域になる。シェムハザイは？
壬生 未だ一号炉をはさんだ向こう側。
秦 奴が我々の存在に気付く前に一号炉に棚橋を送り込む。ハイブリッドの布陣を確認。
壬生 私たちの前方には 300 人のハイブリッドが配置されているわね。
秦 俺は攻撃しながら左へ移動する。樋村と匡子は右へ。ハイブリッドが引きつけられて
開いたその間隙を、棚橋は最高速度で駆け抜け、一号炉に走り込め。
棚橋 えっ？ それが作戦？ それだけ？
秦 だから、アメフト・ランプレイ大作戦と言っただろ。
棚橋 どこが大作戦なんだ。
秦 〈天空の目〉を閉じろ！ シェムハザイに察知される前に……。
樋村 大丈夫だ。気付かれてはいない。(〈天空の目〉を閉じる)
秦 俺たちは一人あたり 100 人のハイブリッドをお相手すればいいだけ。朝飯前だよな。
樋村 よしてくれ。冗談にしても達が悪過ぎる。(鼻で笑う)
秦 30 秒で決めよう。棚橋、アメフト・ランプレイ大作戦だ。ハットは一回。ハット！

勇ましい音楽に乗って銃撃を開始。ハイブリッド達の怒号。銃声に伴ってスクリーンに散る羽根。秦がアマダスの剣を振ると、肉を断つ鈍い音とともにスクリーンに血が飛び散る。

榎村　ダメだ！　人数が多すぎる。秦！　アマダスの剣を！
秦　受け取れ、榎村！

秦が剣を放る。放物線を描いて剣が飛び、榎村がパシッとそれを受け取る。
今度は榎村が剣を振る番だ。スクリーンに飛び散る血と羽根。

秦　防衛線に間隙が出来た！（前方を指差し）一号炉まで一直線。棚橋、走れ！

だが、棚橋は二の足を踏んで走れない。

秦　馬鹿野郎！　早くしろ！　クソ。榎村！　アマダスの剣！
榎村　秦！（と、剣を放る）

秦が受け取って、切り付ける。スクリーンに続けざまに飛び散る血。

秦　早くしろ！　これ以上俺達にハイブリッドを殺させるんじゃねえ！
壬生　ダメ。晃は回転する縄跳びに入っていけない小学生みたいになってる。
秦　しょうがない。作戦変更だ。棚橋、膝を抱えて丸くなれ！
棚橋　なんで？
秦　なんででもいい。丸くなれ！
棚橋　はい。（と、素直に丸くなる）
秦　榎村。キャプテン翼だ。
榎村　は？　キャプテン翼？
秦　キャプテン翼のツインシュート作戦だ！　お前、岬太郎な！
榎村　ツイン……って、おい！
秦　せーので、棚橋のケツを蹴るぞ！
棚橋　はっ？　俺のケツ？
秦　せーの！

秦と榎村が同時に棚橋のケツを蹴る。ボールが蹴り出されるSE。スクリーンの向こうから、丸いものが急速度でこちらに飛んでくる。膝を抱えて丸くなった棚橋だ！

壬生　ナイスキック！
榎村　さすがの若島君も一歩も動けまい！

棚橋の叫びがドップラー効果をとまって大きくなる。スクリーン全体を埋め尽くす

絶叫する棚橋の顔。映像がブラックアウトするタイミングで、舞台前っ面に格好良く着地する棚橋。と、直ぐさま、ケツを抑えて、

棚橋 ケツ痛え。

秦 痛がってる暇はない。一号炉の中に駆け込め！

壬生 そこは魔法粒子がギンギンよ。早くアルマロスのもとへ。タリスマンの結界の中へ！

血相を変えて前方へに駆け出す棚橋。だが、照明が変わり、立ち止まる。
轟く雷鳴と激しい雨音。舞台前方両袖に現れる但峰と大念。

大念 大丈夫でした、雨？

棚橋 酷い雨ですが、運良くタクシーを拾うことが出来ました。

大念 （尻を押さえて、顔をしかめているのに気付き）どうかされました？

棚橋 その、雨で濡れたタイルの上で滑って、尻を打ってしまって……。

大念 大丈夫ですか？

棚橋 大丈夫です。

但峰 ……今回は脳波計だけの測定ですので、電気刺激は有馬ルカさんの病室の中で行います。

大念 オペ室だと緊張してしまうでしょ……。

棚橋 ルカが？

大念 （笑って）ええ、ルカさんが……。

近くに落雷。大念が驚く。

大念 本当に酷い嵐ね。変電設備に落ちなきゃいいけど……。

但峰 さっそく、始めましょう。（と、退場する）

大念 では、こちらへ。

大念に促され、棚橋は退場する。台上の三人が下の舞台上に飛び降りる。

秦 ツインシュート作戦成功！ 樋村、匡子、一時撤退だ！

壬生 博！ 一気に攻められてる。アマダスの剣を！

秦 匡子。受け取れ！（と、剣を放る）

壬生 （パシッと取って）どうもありがとう。

壬生がにっこりと笑って、剣を振り上げる。しかし、振り下ろした先は樋村の胸だった。みぞおちに突き立てられるアマダスの剣。

樋村 ぐえっ！ きょ、匡子……。

秦 匡子、お前何を……。

壬生の哄笑。可笑しくて仕方がないといったように見える。
血相を変えて舞台奥台上に駆け込んでくる挟井。

挟井 あいつは私じゃない。シェムハザイよ！
樋村 プル……テウス……の秘術。
秦 樋村！
挟井 博。そいつを撃って！ アマダスの弾丸で、そいつを！
秦 （マガジンを入れ替えて、銃口を壬生に向けるが、撃てない）ダメだ。俺が引き金を引いた途端、そいつはお前と入れ替わる。
樋村 いいから……早く……撃て！
挟井 博！（意を決して駆け出し、壬生を羽交い締めにする）じゃあ、シェムハザイと私と一緒に撃ち抜いて！
秦 匡子。お前……。
挟井 あたしはいいの。外の世界を見たの。私はその世界では死んでいたわ。あの洪水で、私は死んでいたの……。だから、早く天界に戻らなくちゃ……。
壬生 待って、博。シェムハザイは私のもとを去ったわ。誰か他の肉体に……。
挟井 嘘をついている。挟井はまだ私の中にいる。早く、撃って！

一瞬の逡巡。だが、秦の引き金にかかった指に力が漲る。暗転。そして銃声！
暗闇の中で、樋村の声。ゆっくりと明るくなっていく。スクリーンにもたれ掛かるようにして、壬生と樋村が座っている。その傍らに秦。少し離れて、挟井の死体。

樋村 なあ、秦。
秦 なんだ？
樋村 やったな。俺たち……。
秦 まだ、棚橋とアルマロスの横綱対決が残っているだろ。
壬生 博……。
秦 匡子か？
壬生 （頷いて、咳き込む）撃たれる直前に戻ってたわ。やっぱり、死ぬ時は自分の身体がいいわね。アマダスの弾丸が私を貫いたとき、私、はっきりと思い出したわ。津波に家ごと流されたときの記憶……。私ね。外の世界でも先生って呼ばれてた。あの病院の精神科の神経科医長。大介君と楓ちゃんの上司なのも一緒……。
樋村 どっちの世界でも先生か？ 秦、お前は？
秦 どっちも一緒だ。しがない大学の准教授……。
樋村 そっか。俺もどっちの世界でも殺し屋だったぜ。
秦 （笑って）本当か？
樋村 まあ、あっちの世界では殺し屋って「役」だったけどな。
秦 役者だったのか？
樋村 「ザ・ヒットマン」あの TBF の人気番組、見てなかったのか？ その主役。あの大地

震で死んじまったけどな。ロケ中に倒れてきた煙突の下敷きになって……。ああ、敵（かたき）役の石間組を道連れにしないことには死んでも死に切れねえあ。

壬生 思いを残すと成仏しないよ。

樋村 天使なのに成仏か……。で、お前は思い残したことはないのか？

壬生 ないね。大介君と楓ちゃんがしっかりやっているから……。何も思い残すことはない。

ねえ、博。私……。一足先に行ってるね。

秦 ああ。すぐ会えるさ。

壬生の背中から翼が生え、光の渦となって天界へと登っていく。

と、石間組の二人が舞台前方にうっそりと現れる。

滝野 なんすかねえ、この廃墟。病院だったけか？

石間 なんでこんなところで道草するんだ。

滝野 雨降りそうですし。それに、なんか気になったんですよね。んっ？（と、床に落ちていた羽根に気付く）羽根？

と、滝野がそれを拾い上げた途端、照明が変わり、「アクション」の声がかかる。

石間 あっ、アクション？

（声） もう、カメラ回ってますよー。最終シーンなんですから、気合い入れていきましょうよ。じゃあ、もう一回。シーンナンバー12、カット32、アクション！

滝野 （携帯を耳に当て）青木！ 青木！ くそ、出ねえ。まさかやられちゃった？

石間 演技でもねえことを！ あんなヒットマン一人に全員が……。

銃声！ 悲鳴を上げる滝野と石間。パピヨンがキャキャン吼えている。

後方台上で立ち上がる樋村。銃口を向けている。

樋村 残っているのはお前達だけだ。

滝野 嘘だろう……。

樋村 発電所開発。そんな下らない利権を守るために、一体何員殺してきた。そして、どれだけの人に血の涙を流させてきた。

滝野 ばか。私利私欲からじゃねえ。上に言われたからに決まってるだろ！

石間 上って言ったら政治家のことだ。

樋村 お前達は、その政治家まで懐柔して、意に添わないヤツは殺してきたはずだ。

滝野 待てよ。お前だって昔は、一緒に殺してきたじゃねえか。

石間 同じ穴の……。

銃声が石間の減らず口を止める。

滝野 待てよ。あれか？ お前のイロか？ あれ殺したのは俺たちじゃねえぞ。

石間 そこ勘違いしちゃ……。 (銃口を向けられて) ああああ、ご免ご免。あのパピヨンだけは、このわんちゃんだけは許してもらえるか？

樋村 犬の命まで奪うことはない。

石間 ありがとう。(と、つい頭を下げてしまう)

滝野 オヤジ、何こんなヤツに頭下げてるんですか！ なあ、樋村、調子こいてるとぶっ殺すぞ！

と、滝野が銃口を向けた途端に銃声。滝野が吹っ飛ぶ。続けざまに、もうひとつの銃声。銃口を樋村に向けた石間が仰向けに倒れる。パピヨンの泣き声が遠ざかっていく。

樋村 撃ちたくて撃つわけじゃない。誰かの想いが俺に引き金を引かせるのさ……。

(声) カット。OK。お疲れ様でした。チェックして問題なければ、クランクアップです。

樋村がゆっくりと銃口を下ろす。と、同時に翼が開いていく。

樋村 じゃあな。すべてを終えたら戻ってこい。

秦 すぐ会えるさ。

樋村 なあ、この世界が「煉獄」ってヤツだったのかな……。

秦 さあな。天界に戻ったら訊いてみる。

翼が光の渦となる。ゆっくりと倒れていく樋村。台上に現れる嘉剛。

秦 見てたのか？ 死に損ない。未来は変わったか？

嘉剛 秦。もうすぐやってくる。

秦 もうすぐ？ 待てよ、天界が動くとも言えるのか？ 冗談は……。

嘉剛 二人の仲間を失っただけでシェムハザイを打ち破ることが出来たとでも？

秦 おい！ 未来は変わらなかった？

倒れていた挟井が声を上げ、起き上がる。

挟井 ねえ、見てよ、この傷。(と、頬に出来た血の跡を指し示す) さすがの私でもかわしきることが出来なかったわ。アマダスの弾丸で付けられた傷はそう簡単には治らない。一生残るのかしら、この傷。私を傷付けることが出来たのは、あなた方が初めてよ。賞賛に値するわ。ねえ、殺す前にあなたにもう一度だけ聞くけど……。どうしても私たちは戦わなければならないの？

秦 俺たちは殺戮天使だ。

挟井 ねえ、どうしてそこまで天界を信じることができる？ お前達の翼をもぎ取った天界を。ねえ、私とともに天界に反旗を翻したいとは思わないの？

秦 ウラヌスのデブリがてんこ盛りのゴミ袋抱えて天界を目指したいのはやまやまなんだが、生憎、俺は飛ぶことが出来ないんだ。あんたが今言ったように、翼をもぎ取られ

ているんでね。(アマダスの剣の切っ先を挟井に向け) 災いなるかな、反逆者を束ねし者。汝の名は……。

挟井 馬鹿なの、あなた？ ねえ、単なる馬鹿天使？

パルス音。舞台の中央に現れる棚橋。舞台袖両翼に但峰と大念。照明が振り替わる。

但峰 そのベッドの横にある椅子に腰掛けて下さい。

大念 ルカさんの手を握って頂けますか？

但峰 バイタルサインは？

大念 心拍、呼吸ともに正常。脳波は紡錘波形を示しています。REM、急速眼球運動も観られます。

棚橋 夢を見ている？

但峰 ええ、そうです。いいですか、今から脊椎に設置した電極を通じて電気刺激を開始します。反射的に手を握り返して来ますので、驚かないで……。

大念 逆に、強く握り返して下さい。お願いします。

棚橋 それで彼女が目覚めるなら……。

大念 あなたが信じなくてどうするんです？

雷鳴。激しい雨。心配そうに窓の外を見る大念。

但峰 パワーサプライヤー準備完了。では、秒読みを開始する。

照明が後方へと切り替わり、但峰と大念がぐるりと踵を返し退場。

嘉剛 秦。来るぞ！ 棚倉断層が動く！

秦 おい。なんで……。 (天を仰ぎ) ちょっと待て！ 何故、今なんだ！ なあ、もう少しだけ待ってくれ。俺が見えないのか！ 俺の声が……。

秦の天界への叫びが途絶える。下から突き上げるような振動が皆を襲ったのだ。

秦 畜生！ どうして今なんだ！

挟井 (満面の笑みで勝ちどきを上げる) 天界が戦端を開いた！ 立ち上がり、飛び立て、すべての眷属達！ 我はすべての者に翼を与える！

地鳴りが続く。舞台前方倒れ込んでいる棚橋に照明が振り替わる。

棚橋 地震？ おい、ここは？ ネフィリムか……。待て、この地震は？ まさか天界が？なんでこんな時に！ どうしてなんだ！ なあ、あいつらみんなシェムハザイに振り返ちにあったってことかよ！ どうなんだ！ 誰か答えろ！ おい、アルマロスどこにいる？ (と、上空を見あげ) なんだよ、これ……。真っ赤なアドバルーン？ 違

う、これがウラヌスのデブリを包んだ大きな布？

いつの間にか、アルマロスが傍らに立っている。

アルマ シェムハザイが魔法の糸を編み込んで作ったホーリー・シュラウド。デブリを詰め込んだ聖骸布よ。2000 人の眷族達がそれを天界へと運ぼうとしているの。見て、すべての眷属達の背中に翼が生えた。彼らは力強く羽ばたいて天界へと飛翔する。真っ赤な聖骸布（ホーリー・シュラウド）に包まれた天界への贈り物を携えて……。

棚橋 なあ、そんなことをしてどうなる？

アルマ 先に宣戦布告したのを天界の方でしょ。このネフィリムの近くでこんな大きな地震を起こしたら、どうなるのか、天界が知らないはずはない。あの時の大洪水と同じ。天界は私たちを殺すためなら、人間がどれだけ死のうが、苦しもうが、かまいはしない。でも、私たちは違う。天界が人々に与えた苦痛をこれでお返しするのよ。

棚橋 （頭上を見あげ）頭上をたくさんの天使が飛んでいた。肩に赤い縄を結びつけた何千何百のゴリゴリの同胞（はらから）が、一路天界へ向けて飛んで行く。何トンもの汚染物質を贈り物に……。なあ、ルカ！ これがお前の作り上げた魔法世界の最悪の結末なのか？ お前は何を望み、この世界を作り上げたんだ？

照明、舞台奥台上へ。上空を見つめている嘉剛が銃口を口に入れようとしている。

嘉剛 始まった。とうとう始まった……。最悪のシナリオだ……。

挟井 天界を目指し、眷族達が飛んでいく。雄々しく羽ばたいて、猛々しく叫びながら！ 私たちは今度こそ倒す！ ミカエルを、ラファエルを、ガブリエルを、ウリエルを！ 私たちグリゴリを裏切り者と断罪した天界すべてを破壊する！

尾を引くような悲しいまでの叫び、そして銃声が響き渡る。嘉剛が口にくわえた拳銃の引き金を引いたのだ。スクリーン狭しと飛び散る脳漿と血液。

挟井 全知なる者が死んだわ。天界はあなたを信じることなく、暴挙にでたの。分かる、殺戮天使？ もう一度最後に聞いわ。本当に天界は信じるに足るもの？

秦は言葉ではなく、アマダスの剣の切っ先を挟井に向けることで、その問いに答えた。

挟井 どうして？ どうして信じられるの？ 天界に無捨てられたんだぞ、お前も！

と、絹糸のこすれるような音。赤い糸が秦の左肩に絡みつき締め上げる。痛みで顔を歪ませる秦。その刹那、秦の左腕が肩口からもぎ取られ、回転しながら映像の向こうへ飛んでいく。秦の体から左腕が消えている。右手に握りしめられた弾の切れた拳銃。その右手で、もぎ取られた左腕の肩口を抑える。潮騒とともにスクリーンに浮かび上がる一人の女性の姿。波打ち際に打ち上げられた

女性だ。死んだように両目を綴じている。その女性は秦の研究室の助教の早坂であった。早坂の右手首に巻き付いているロープ。その先に男の右手が見える。

早坂の瞼がゆっくりと開く。

潮騒。

早坂が右手を挙げると、男の手もついてくる。「秦先生……」早坂が呟くように言う。その表情が急変する。早坂とロープでつながった秦の手は肩から先が失われていたのだ。その千切れた腕を抱きしめて、天を仰ぎ、絶叫する早坂。「秦先生ええええ！」その尾を引く悲しい絶叫がリバーブを伴って消え入るのと同時に映像も霧散する。

挟井 （哄笑して）アマダスの剣なしで、どうやって私を倒す。

秦が挟井に近づいていく。絹糸のこすれるような音とともに、秦の首に絡みつく赤い糸。秦は喘ぎながらも挟井に顔を寄せ、銃口を挟井の額へ向ける。

挟井 （おかしくて仕方ないといった風に体を震わせて）ねえ、アマダスの弾丸はもうないの。弾の切れた拳銃で私を殴り殺そうとでも言うの？

秦 （喘ぎながら、小さく答える）チェックメイトだ。

挟井 （薙いだように笑顔が消え去る）何と言った？

秦 （今度は幾分強く）チェックメイトだ。もし、この拳銃の中にアマダスの弾丸がもう一発だけ残っていたとしたら……。

挟井 そんなはずはない。馬鹿を言うな。お前は最期の弾丸を、仲間を殺すために使った。

秦 そうだ。

挟井 そして、残っていたもうひとつは全知なる者が自らの命を絶つのに用いた。だから、その中には、もう……。 （と、気づき叫び声を上げる）まさか！

挟井の視線が嘉剛に向く。銃口を口に咥えて、絶命しているように見えた嘉剛が、その銃口をゆっくりと引き抜く。

嘉剛 本物は……。 （秦の拳銃を指差す）

挟井 ……。

立ち上がる嘉剛に、秦が声をかける。

秦 なあ、嘉剛。これで未来は変わったか？

嘉剛 （こっくりと頷く）

秦 何処に行く？

嘉剛 アルマロスのもとへ……。

嘉剛が退場する。

挟井 なあ、図ったな？ （逆上して）図ったな、お前！
秦 ああ、騙した。お前なら、自惚れからこの罠に引っかかると思った……。
挟井 同時にお前の首も飛ぶぞ。
秦 相打ち。それが端っからの狙いだ。災いなるかな、傲慢ゆえに自ら滅ぶ者。汝の名は
 シェムハザイ。

銃声とともにシルエット（白と黒）となる秦と挟井。スクリーン上で挟井の後頭部が炸裂し、血と肉片が飛び散る。同時に秦の頭部が千切れ飛ぶ。
舞台前方（棚橋とアルマ）に照明が振り替わる。

棚橋 何が起きた？ 魔法の糸がほつれ始めた。広がっていくほころびから真っ赤に焼けたデブリが、ぼたぼたと溢れ始めた。垂れ込めた雲の下で舞い始める無数の天使の羽根。聖骸布（ホーリー・シュラウド）から伸びた数百の綱の先端にいるハイブリッド—の背中の翼が崩壊を開始したんだ。羽根が、ハイブリッド達の羽根が、空一面に広がり、粉雪のようにふわふわと降ってくる。ホーリー・シュラウドだけでなく、ハイブリッド達の翼もまた、シェムハザイの魔力によって生じたものだ。その魔法が解けたと言うことは……。シェムハザイが昇天した？ つまり、あいつら……あいつらシェムハザイに勝ったんだ！ だから、魔法がゆっくりと消え去ってるんだ。

スクリーンには垂れ込めた雲。奥台上の上に壬生、樋村、秦、挟井の亡骸がシルエットになって映じている。血に染まった天使の羽根が、大量の羽根が、雲の切れ間から風に舞う牡丹の花びらのように降ってくる。

棚橋 ホーリー・シュラウドに大きな亀裂が走り、大量のデブリが灼熱の塊となって墜ちてきた。その反動で何人かの眷族が地面に叩き付けられて絶命する。

熱で溶けた金属の塊が足下に落ちてくる。棚橋はその熱を避けようと、顔に手を翳す。アルマロスは焦点の合わない目で、それをただ見つめるだけだ。

アルマ これは？ 一体何なの……。

溶鉱炉からの照り返しのようなオレンジがかった光がアルのロスの顔で揺らめいている。その背後に立つ嘉剛。

嘉剛 万にひとつの……億にひとつの奇跡が起きた。

アルマ まさか！ シェムハザイが？

嘉剛 アルマロス。タリスマンを忘れていたぞ。

アルマ 嘘よ。シェムハザイが負けるわけがない。殺戮天使に負けるはずなんか……。

嘉剛 タリスマンだ！ アルマロス。

アルマロスが自分の手を胸に抱くようにして、タリスマンを再度強く起動する。
オレンジ色の揺らめきが消える。

嘉剛 未来が変わった。最後のグルゴリよ。

アルマ 最後の……。

嘉剛 そうだ。

アルマ 最後のグリゴリ……。

雷鳴とともに、両袖に現れる但峰と大念。

大念 4～8Hz の律動……。 (気付いて叫ぶ) 脳波に θ (シータ) 波が現れています。

但峰 シータ波? まどろみ……覚醒の予兆か? 電気刺激を続行する……。

舞台上に彷徨うようにして現れるルカ。

棚橋 ルカ? (目をこらして前方を凝視する) ルカ!

ルカ (まわりを見回して) これは何、死体が……。

棚橋 なあ、ルカ、憶えているか? 累々と死体が転がる荒れ野を、君を負ぶって歩いた。あの洪水を生き延びた後だ。あの時の光景をを思い出した。なあ、これが君の作り上げた世界なのか?

ルカ 私が夢想したのは魔法で動く世界。それだけよ、私が望んだのは……。すべてが魔法なの。あの発電システムも……。だって魔法なら、魔法でどうにか出来る。

棚橋 だから君は、アルマロスになった。すべてを無力化できる秘術を持つ……。

ルカ それは、決して壊れることのない世界。

棚橋 そう。決して壊れることのない世界。アンブレイカブル……。だがそれは天使達が殺し合う冷酷な世界だった。何故、君は殺戮天使を作り出したんだ? グリゴリ達を殲滅するための存在を……。それは、君が目覚めるためのものか?

ルカ 私はこの世界に永遠にいるの。だって……。

棚橋 違う。君の心の奥底には、もうひとつの意志が……。

雷鳴が轟く。病院の近くに落ちたのだ。パルス音。大念と但峰に明かり。

但峰 近いな。変電設備に落ちなければいいが……。

大念 心拍数、呼吸数ともに上昇。依然 θ (シータ) 波が出続けています。

但峰 電気刺激を続行。パワーサプライヤーの電圧を上げる。

スパーク音。明かりが振り替わる。と、突き上げるような地鳴り。

棚橋 また地震か! おい、このままだとメルトアウトが起きかねないだろ。

嘉剛 今の衝撃で隔壁のコンクリートが崩れた。ウラヌスのデブリが隔壁の下へと流れ落ち始め

た……。タリスマンの力が及ばない地中深くへと……。

棚橋 それが地下水に触れたら……。

嘉剛 高温の水蒸気が発生し、デブリ中のジルコニウムと反応し……。

棚橋 水素爆発が起きる……。

嘉剛 アルマロス。お前には二つの選択肢がある。ひとつの選択肢は、一人で天界に飛んでいくことだ。お前は蠍座につなぎ止められ、何も喋ることも出来ず、永遠に生き続ける。人類が泣き叫び、死んでいく様をはるか南の空からただ眺めながら……。

棚橋 なあ、ルカ。病院のベッドの上で、永遠にこの悪夢を見続けたいのか？

嘉剛 もうひとつは……。お前のタリスマンの力で、この再臨界を止めることだ。

棚橋 ルカ。目覚めるんだ！ 頼む。君の心の中には覚醒の意志があるはずだ。

ルカ 嫌だ！ 私はずっとこの世界にいるの。私が作り上げた魔法世界に。

棚橋 この世界の向こうに、本当の世界がある。

ルカ タミエおばちゃんも死んだ。パパもいない世界に？ 私はひとりぼっち……。

棚橋 ここだってそうだろう！

アルマが亡霊のように下手側階段を登り、台上へと移動する。

映像。大波に流される車両、そして家屋／天井で明滅する蛍光灯／泣き叫ぶルカ。「タミエおばちゃん。目を開けて！ 嘘だって言って！」／煙を噴き上げ爆発するリアクター／道路封鎖する警察官。「ですから 30 キロ圏内は立ち入り禁止です……」

ルカ あの家だって、もうないの。ママの思い出もすべて流された……。立ち入り禁止のあの場所へはもう戻れない。(涙声で) 戻りたくても戻れない……。

アルマ ねえ、ルカ？ 私はどうすればいいの？ 私はあなた……。あなたは私……。

嘉剛 言ったはずだ。それはお前が決めることだと。

アルマ ねえ、ルカ、教えて……。

ルカ ひとりぼっちは嫌だ！ みんな死んじやった。晃君はどうして私を助けたの？ 私は……あの船で……天国へ行きたかった。ママのいる天国へ行きたかった。

奥台上で天を見あげたアルマロスの翼がゆっくりと開いていく。

嘉剛 アルマロス。お前は天界に向かう気なのか？ 蠍座に……。

棚橋 永遠に悪夢の中にいたいのか？ なあ、ルカ？

轟く雷鳴。大念と但峰に明かり。

大念 但峰先生！ 脳波に変化が……これは、 β (ベータ) 波！

但峰 β 波！

大念 ねえ、ルカさん。あなた！

と、大念がルカの顔を伺おうとした途端、一際大きな雷鳴。ブーンという音とともに、二

人へのサスが力尽きたように暗くなり、ほの暗い青い明かりとなる。

但峰 どうした？

大念 停電？ まさか、変電設備が……。

但峰 非常発電は？ ちょっと見てくる。(脱兎の如く飛び出していく)

大念 棚橋さん、大丈夫ですか？ 電源が復活するまで、そのまま動かないように……。

青い照明の中に棚橋とルカ。ルカが不思議そうに上空を見つめている。

ルカ (呟くように) 天使……。

棚橋 (ルカの視線を追い、天高く登っていく天使達の姿を認める) 天使だ。三人の天使が雲の裂け目に向かって飛んでいく。真白き翼。その姿は眷属達のものとは全く違っていた。三人の天使。それが誰なのか俺には分かった。これが殺戮天使の昇天だ。アルマロスが最後のグリゴリとなったその時に、俺は最後の殺戮天使となっていたんだ……。なあ、ルカ。俺もひとりぼっちになったよ。ひとりぼっちは嫌だな。だって、一人だとキャッチボールも出来ないからさ。キャッチボールを教えたのは、本当は俺だったっけ。俺たちは言葉を交わす代わりに球を投げ合った。俺たち、黙々とキャッチボールしてたよな。言葉のキャッチボールが下手なのに、球の投げ方は上手くて、びっくりしたよ。高校で嫌なことばかりあって、そのたびに抜け出してきては、悲しい顔でいつも海を覗いていた君。話しかけても何も答えない君。でも、キャッチボールをしているときの君は……。無心に球を投げ返している君は……饒舌だった。俺には君の声がちゃんと聞こえていたから……。

棚橋がルカの手を握りしめ、祈るように瞼を閉じる。天空を見つめるルカ……。

その背後で、アルマロスの羽根がゆっくりと折りたたまれていく。

嘉剛 そうだ。翼を開く必要はない。ただ、炉心の中に飛び込むだけだ。

アルマ 水素爆発は起きる？ 私はそれで粉々になるの？

嘉剛 そうだな。でも、切り裂かれ、砂粒のような小さな欠片になったとしても、そのひとつひとつにタリスマンの秘術は宿り続ける。爆発で飛び散ったウラヌスの怒りはその力によって抑えつけられる。

アルマ それが私の魔法の本当の意味？

嘉剛 さあ、一緒に行こう、アルマロス。お前を一人にはしない、この世界では……。

嘉剛がアルマロスの手を握る。そして、二人は眼下の炉心に向け一歩踏み出す。

携帯ラジオから聞こえるニュース報道。「……県内全域に大雨洪水警報と落雷警報が出ています。くれぐれも不要不急の外出はお避け下さい。ただいま入った情報によりますと、落雷で JR の変電設備に問題が起き、常磐線と磐越東線が運休……」

音響が高鳴り、ニュース報道を掻き消す。ゆっくりと暗転する舞台。

暗闇の中、遠くで爆音。水素爆発がアルマロスの身体を引き裂いたのだ。多数の小さな破片となったアルマロスが、ネフィリム周辺に拡散し、大地に染み込む……。

12. エンディング

春の野鳥の囀り。

暗闇の中にフェードインしてくる SE。ぱたぱたと駆け込んでくる足音。

「但峰先生。有馬ルカさんが……」大念の声だ。息をついて呼吸を整え、言葉を繋ぐ
「意識を回復しました！」

スクリーンに映るルカの顔。ベッドに仰向けに横たわっているのを真上から撮った映像だ。真白きシーツに、清潔な枕カバー。柔らかな朝の光が、彼女の顔を照らしている。開かれた両目。遠くを見つめているような視線。

大念の声。「脈拍、血圧ともに正常範囲。瞳孔反射も確認出来ます」

但峰の声。「有馬さん。お話しができるかな……」

そこからか漏れ聞こえるテレビ報道。「常磐中央病院で5年間眠り続けていた女性が目覚めたとのことです。大震災の後、父親の自死の現場を目撃し、そのまま意識を失い、5年間眠り続け、一時は脳死状態とも判断された有馬ルカさんですが、脊髄後索電気刺激という新しい治療法によって、無事意識を回復しました。有馬ルカさんの父親は発電所の技術管理部長であった有馬嘉剛さんですが……」

大念の声。「壬生先生。聞こえますか？ 先生の研究されていた脊髄後索電気刺激が彼女を、ルカさんを救ったんです」

但峰の声。「壬生先生に報告に行こう。墓前に手向ける花は先生の好きだった……」

大念の声。「紫色の花を、持ちきれないほど……」

スクリーン上のルカの顔の横にスクロールされていく Unbreable 三部作のスタッフとキャスト名。

ラジオだろうか。雑音を孕んで聞こえてくるアナウンサーの声。

「この春から TVF 系列で新シリーズ「ザ・ヒットマン6」が始まります。5年前のあの日、主役、ザ・ヒットマン役の樋村克爾さんが、大地震によって倒壊した煙突の下敷きになり、亡くなりました。『ザ・ヒットマン』はその悲劇をのりこえて続けられてきたのです。樋村さんの命日に当たる今日。すべての出演者、そしてスタッフが郡山の土屋化学の工場敷地内にある慰霊碑の前に集まっております。コミカルな敵役として人気が高い石間組のお二方、石間組長と若頭の滝野さんも、本日は神妙な面持ちで……」

舞台の上にすべての登場人物がひとり、また一人と登場する。仁王立ちで客席を見つめる登場人物達。だが、その表情は陰になって見えない。

春の野鳥の囀り。

女の声。「東日本技術科学大学の学生担任の早坂です。大学の事務手続きに関しては問

題ありません。有馬さんの体調が整い次第ご入学いただけます。大変残念なことに、秦先生は5年前の震災で帰らぬ人となってしまいました。地学科の研究室は私が准教授となって研究を引き継いでいます。志（こころざし）半ばで他界された秦先生の想いを、その願いを……」

春の野鳥の囀りが早坂の声を掻き消す。

ニュース報道。「唯一稼働中の鹿児島川内（せんだい）原発の運転を差し止める仮処分を求めての住民側の特別抗告が最高裁で認められました。これを受けて、川内（せんだい）原発は運転を停止するほかになりました。これにより、国内で稼働中の原子力発電所は0基となります」

春の野鳥の囀り。

仁王立ちの棚橋、そしてルカにうっすらと明かりが射す。

棚橋 やっと、眠り姫のお目覚めか？

ルカ 今でも釣りに行ってる？

棚橋 （ゆっくりと首を振り）5年間にいろいろなことが変わったが、なにも変わっていないこともある。あの場所で釣りをすることは、まだできないんだ。

ルカ キャッチボールは？

棚橋 （深く息をつき）キャッチボールも、だ。でも、いつの日か、できるよ。

ルカ その日が……来るの？

棚橋 来るさ……。

スクリーンのルカの目から涙がこぼれ落ちている。

どこからか漏れ聞こえるテレビのニュース報道。

「……帰還困難区域に設置されている582箇所のモニタリングポストのすべてで異常が発生していると原子力規制委員会が発表しました。常時数マイクロシーベルトを示していた測定値が、すべてのモニタリングポストで10分の1から100分の一の毎時0.04マイクロシーベルト以下になっているとのことです。原因は目下調査中ですが、昨夜県内で起きた落雷が観測装置の不具合を引き起こした可能性が指摘されています……」

春の野鳥の囀り。

テレビから漏れるアナウンサーの声。「……モニタリングポストの不具合に関して、現在調査が進められていますが、通信システムや測定装置に問題は認められないとのことです。また、携帯型の線量計でも同様に低い数値しか示さないとの報告もあります。毎時0.04マイクロシーベルト以下という、事故前の数値と一緒にということになりま

すが、解説員の石橋さんはこのことをどう見ますか？」

解説員が答える。「どう考えても測定装置の故障でしょう。放射性物質は分解されないのです。帰還困難区域内の放射能が昨夜の嵐によって、すべて消え去ることなど有り得ません。魔法でも使わない限りはね。そんな魔法があったら……」

ルカ そんな魔法があったら……。

アルマ そんな魔法があったら……。 (微笑んで) ねえ、ルカ、知ってる？ 世界は……。

と、ルカ以外の全員が口を揃える。囁くような優しい声で。

「世界は魔法で動いてる……」

Unbreakable / Fireflight が高鳴り、照明が激しく瞬く。

光と音の洪水の中、すべての出演者が客席に向かって深々とお辞儀する。

こうして、Unbreakable 三部作が完結する。